

Osaka Medical College Faculty of Nursing

大阪医科大学看護学部

年 報

2014年(平成26年度)

Annual Report 2014

大阪医科大学 看護学部 2014 年度年報 目次

はじめに

I.	沿革	1
II.	看護学部教員組織	
1.	人事に関する事	3
2.	教員の定数化に関する事	3
3.	再任に関する事	4
III.	年間事業	
1.	学生在籍数	5
2.	2014 年度予算執行額	5
3.	学事一覧	6
4.	年間事業活動内容	8
IV.	運営と教育活動	
1.	運営組織	9
2.	センター	
	看護実践研究センター	10
	教育センター	12
	学生生活支援センター	14
3.	委員会	
	実習調整委員会	16
	看護学部ウェブサイト委員会	17
	看護研究雑誌編集委員会	18
	備品管理委員会	19
	就職支援委員会	20
	国家試験対策委員会	21
	年報編集委員会	22
	広報委員会	23
	卒業研究に関する倫理審査会	24
4.	教育活動	
1)	授業科目一覧	25
2)	各領域の教育活動	31

V. 研究活動

1. 研究実績

- 1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 41
- 2) 各自の業績（外部資金獲得除く） 44

VI. 社会活動 65

VII. 地域・社会貢献 71

VIII. その他 73

はじめに

平成 26 年度は、学士課程における看護基礎教育のさらなる充実に向けてカリキュラムポリシーを具体化させ、FD やカリキュラム検討などに取り組んできた。また、大学院看護学研究科が開始されたことで、教育及び研究に向けて飛躍的な成果を上げた一年であったと思われる。

わが国は、少子超高齢社会の到来とともに医療のパラダイム転換の時代を迎えた。医療のあり方は、救命・延命から QOL と QOD、そして臓器機能の回復から生活機能の維持・回復へ、また、病院中心医療から地域完結型の医療・介護へ大きく変化しようとしている。この大きな医療のあり方の変化は、看護実践の場を拡大させ、看護が中心となって果たすべき役割が拡大し重視される時代になってきたことを示している。

このような社会の急激な変化を見極めつつ、本学部が取り組んできた一年間の教育、研究、社会貢献に関する事業とその評価について、2014 年度年報としてまとめた。

大阪医科大学看護学部長

林 優子

I . 沿革

沿革

1927（昭和 2）年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927（昭和 2）年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929（昭和 4）年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946（昭和 21）年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946（昭和 21）年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948（昭和 23）年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951（昭和 26）年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952（昭和 27）年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952（昭和 27）年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959（昭和 34）年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965（昭和 40）年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978（昭和 53）年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982（昭和 57）年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程(全日制)設置認可
2009（平成 21）年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010（平成 22）年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012（平成 24）年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013（平成 25）年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014（平成 26）年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設

Ⅱ. 看護学部教員組織

1. 人事に関すること

矢野貴人教授が医学部教授として医学部へ異動、さらに大学院看護学研究科が設置されたことで、赤澤千春教授、鈴木久美教授、畑中あかね講師の看護系教員 3 名が採用された。鈴木教授は矢野教授の後任、畑中講師は病院 CNS 兼務であるため、教員数の増員は実質 1.5 名である。教員増員に伴って看護専門領域に「看護実践発展領域」を新設置して 10 領域編成とし、医学系教員 3 名と人文社会系教員 1 名を各領域にそれぞれ配置させた。

退職後の助教後任など正職員を採用することが不可能だった領域（基礎看護学、精神看護学、老年看護学、小児看護学、公衆衛生看護学）に、各々 1 名の非常勤教員を採用した。その他、人員不足等のために実習期間中の実習補助が必要とされた領域（在宅看護学、老年看護学、母性・助産学、成人看護学）に、各々 1 名の実習補助員を雇用した。

領 域	教員構成 現任数（定数）					
	教授	准教授	講師	助教	非常勤教員	計
基礎看護学	1 (1)	1 (1)	1 (2)	2 (2)	1	6 (6)
急性期成人看護学	1 (1)	1 (1)		1 (1)		3 (3)
慢性期成人看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (1)		3 (3)
精神看護学	2 (2)		1 (1)		1	4 (3)
老年看護学	1 (1)		1 (1)	0 (1)	1	3 (3)
小児看護学	1 (1)	1 (1)		1 (1)	1	4 (3)
母性看護学・助産学	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)		4 (4)
在宅看護学	0 (1)	1 (0)		1 (1)		2 (2)
公衆衛生看護学	2 (2)	1 (1)	1 (1)	0 (1)	1	5 (5)
看護実践発展	3 (3)		1.5 (0.5)			4.5 (3.5)
計	13 (14)	6 (6)	7.5 (6.5)	6 (9)	4	37.5 (35.5)

（2014.4.1 現在）

2. 教員の定数化に関すること

理事会の審議の結果、下記のことが決定した。

- 1) 精神看護領域と在宅看護学領域が 1 名ずつ増員となった。その理由は、教員 2 名に対して、①大学院の精神看護コースが設置され負荷が過重なため、②訪問看護などの重要性に鑑み、新たに大学院のコースを開設するため、であった。
- 2) 教員職位の配置変更と準用については、①教員定員を教授・准教授・助教に限ること、②教授の籍に准教授または講師を置くことができること、③准教授の籍に講師または助教を置くことができること、とされた。
- 3) 増員に見込まれた財源の根拠について、看護学部を設置し複数学部を有する大学となったことによって、「学生納付金収入に対する教育研究経費及び設備関係支出の割合による増減率表」のレベルが緩和され、私学助成金は実質的に 6 千万円増加しており、また本年度から交付される看護学部に関する私学助成金約 1 億円を見込むことができる。それら私学助成金収入と大学院学納金収入を合計すると、看護学部の実質的な部門別収支は消費収支差額が +1 億 6 千万円強となる

見込みである。教員増による人件費は一人1千万円として、定員レベルで4千万円の増となるが、当面定員が埋まることはないの見込まれ、たとえ定員が埋まったとしても消費収支差額は+約1億数千万円で、当初の計画通り看護基礎教育に関する累積赤字は毎年順調に解消できるとされた。

3. 再任に関すること

看護学部設置当初から職位に変更のない准教授、講師、助教は任期5年が経過したため、依願退職を希望する准教授2名と助教1名を除く6名の教員から再任希望が出され、再任審査後に継続となった。

Ⅲ. 年間事業

1. 学生在籍数

1 年生：87 名（女性 85 名、男性 2 名）

2 年生：95 名（女性 86 名、男性 9 名）

3 年生：87 名（女性 80 名、男性 7 名）

4 年生：84 名（女性 79 名、男性 5 名）

2. 2014 年度予算執行額

予算執行額	71,450,123 円
-------	--------------

【内訳】

看護学部教育経費	31,625,506 円
----------	--------------

看護学部奨学金経費	27,000,000 円
-----------	--------------

看護学部改修工事費	12,824,617 円
-----------	--------------

3. 学事一覧

表 1 参照

表 1

日曜	4月	実習	5月	実習	6月	実習	7月	実習	8月	実習	9月	実習
曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜	内 容	曜
1 火	オリエンテーション	木 水③		日	創立記念日	1 火 火⑩		金		月		公衆衛生看護学実習Ⅰ
2 水	オリエンテーション 看護学部教授会15～	金 金④		月 月⑦		2 水 水③ 看護学部教授会15～		土		火		
3 木	入学式	土	憲法記念日	火 火⑥		3 木 木⑫		日		水	看護学部教授会15～	
4 金	オリエンテーション	日 日①	みどりの日	水 水⑨ 看護学部教授会15～		4 金 金⑬		月		木		
5 土		月 月②	こどもの日	木 木⑧		5 土 土⑪		火		金		
6 日		火 火⑤	振替休日	金 金⑨		6 日 日④		水		土		
7 月	新入生学外合宿	水 水⑤ 看護学部教授会15～		土 土⑥ 新入生歓迎会		7 月 月⑫		木		日		
8 火	新入生学外合宿 前期授業開始	木 木④		日		8 火 火⑪		金		月	3年 全体オリエンテーション	
9 水	水① 看護学研究科教授会15～	金 金⑤		月 月⑧		9 水 水④ 看護学研究科教授会15～		土		火		
10 木	木①	土 土②		火 火⑦		10 木 木⑬		日		水	看護学研究科教授会15～	
11 金	金①	日 日③		水 水⑩ 看護学研究科教授会15～		11 金 金⑭		月		木	2年次後期授業開始	
12 土		月 月④		木 木⑨		12 土 土⑫		火		金		
13 日		火 火③		金 金⑩		13 日 日⑤		水		土		
14 月	月①	水 水⑥ 看護学研究科教授会15～		土 土⑦		14 月 月⑬		木		日		
15 火	火①	木 木⑤		日		15 火 火⑫		金		月	敬老の日	
16 水	水② 学科学議 15～	金 金⑥		月 月⑨		16 水 水⑮	学科学議15～	土		火		
17 木		土 土③		火 火⑧		17 木 木⑭		日		水	学科学議1630～	
18 金	金②	日 日④		水 水⑪ 学科学議15～		18 金 金⑮		月		木		
19 土		月 月⑤		木 木⑯		19 土 土⑯		火		金		
20 日		火 火④		金 金⑪		20 日 日⑥		水		土		
21 月	月②	水 水⑦ 学科学議15～		土 土⑩		21 月 月⑰	曜の日	日		月	秋分の日	
22 火	火②	木 木⑥		日		22 火 火⑱		金		火		
23 水	水③	金 金⑦		月 月⑩		23 水 水⑲		土		水		
24 木	木②	土 土④		火 火⑨		24 木 木⑲		日		木		
25 金	金③	日 日⑤		水 水⑫		25 金 火⑲		月		金		
26 土		月 月⑥		木 木⑪		26 土 土⑲		火		土		
27 日		火 火⑤		金 金⑫		27 日 日⑱		水		日		
28 月	月③	水 水⑧		土 土⑪		28 月 月⑲	3講及び試験期間 (3年)	木		月		
29 火	密和の日	木 木⑦		日		29 火 火⑲		金		火		
30 水	水④	金 金⑧		月 月⑪		30 水 水⑲		土		日		
31 木		土 土⑥				31 木 木⑲		日		火		

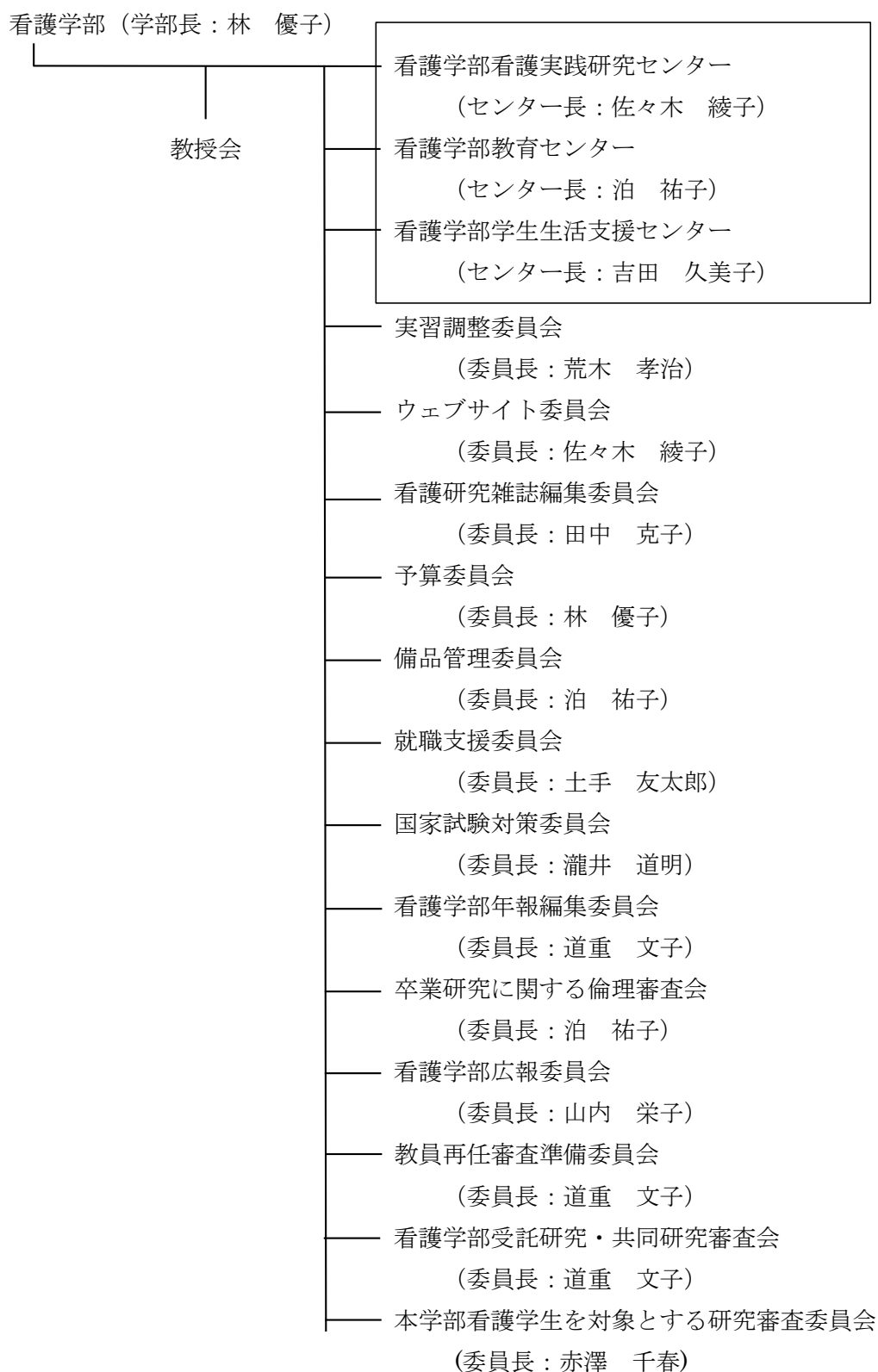
10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
日曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜	曜
1 水	水① 看護学部教授会15～	土	土	月⑥	月⑥	1 木	日	日	日	月	日
2 木	木①	日	日	火⑨	火⑨	2 金	月⑤	月⑤	月⑤	火	火
3 金	金①	月	月	水⑩	水⑩ 看護学部教授会15～	3 土	火	火	火	水	水
4 土		火	火	木⑩	木⑩	4 日	水	水	水	木	木
5 日		水	水	金⑩	金⑩	5 月⑩	木	木	木	金	金
6 月①		木	木	土	土	6 火⑫	金	金	金	土	土
7 火①		金	金	日	日	7 水⑬	水⑬ 看護学部教授会15～	水⑬	水⑬	日	日
8 水	水②看護学研究科教授会15～	土	土	月⑦	月⑦	8 木⑬	木⑬	木⑬	木⑬	月	月
9 木②		日	日	火⑩	火⑩	9 金⑬	金⑬	金⑬	金⑬	火	火
10 金②		月	月	水⑪	水⑪ 看護学研究科教授会15～	10 土	水	水	水	水	水
11 土	土③	火	火	木⑪	木⑪	11 日	木	木	木	火	火
12 日		水	水	金⑪	金⑪	12 月	金	金	金	木	木
13 月	月④	木	木	土 (卒業論文発表会)	土 (卒業論文発表会)	13 火⑬	火⑬	火⑬	火⑬	金	金
14 火②		金	金	日	日	14 水⑭	水⑭ 看護学研究科教授会15～	水⑭	水⑭	土	土
15 水③	水③ 学科学会 16:30～	土	土	月⑧	月⑧	15 木⑭	木⑭	木⑭	木⑭	日	日
16 木③		日	日	火⑩	火⑩	16 金⑭	金⑭	金⑭	金⑭	月	月
17 金③		月	月	水⑫	水⑫ 学科学会 16:30～	17 土	土	土	土	火	火
18 土	土④ 解部部会	火	火	木⑫	木⑫	18 日	木	木	木	水	水
19 日		水	水	金⑫	金⑫	19 月⑫	金⑫	金⑫	金⑫	木	木
20 月②		木	木	土	土	20 火⑭	火⑭	火⑭	火⑭	金	金
21 火③		金	金	日	日	21 水⑮	水⑮ 学科学会 16:30～	水⑮	水⑮	土	土
22 水④		土	土	月⑨	月⑨	22 木⑮	木⑮	木⑮	木⑮	日	日
23 木④		日	日	火	火	23 金⑮	金⑮	金⑮	金⑮	月	月
24 金④		月	月	水	水	24 土	土	土	土	火	火
25 土		火	火	木	木	25 日	日	日	日	水	水
26 日		水	水	金	金	26 月⑬	月⑬	月⑬	月⑬	木	木
27 月③		木	木	土	土	27 火⑮	火⑮	火⑮	火⑮	金	金
28 火④		金	金	日	日	28 水⑮	水⑮	水⑮	水⑮	土	土
29 水⑤		土	土	月	月	29 木⑮	木⑮	木⑮	木⑮	日	日
30 木⑤		日	日	火	火	30 金	金	金	金	月	月
31 金⑤		水	水	水	水	31 土	土	土	土	火	火

4. 年間事業活動内容

- 1) 看護学研究科（修士課程・博士課程）開設
- 2) 看護学部領域編成
- 3) 教員の定数化と職位変更
- 4) 各種センター及び委員会活動の推進
- 5) 国家試験のための対策強化
- 6) 医看融合教育の推進
- 7) 国際交流の推進（台北医学大学看護学部との交流）
- 8) セルフトレーニングルームの整備
- 9) 保健師選択制に伴うカリキュラム改正
- 10) 就職支援ガイダンス（卒業生と在校生との交流）
- 11) 看護学部備品管理システム化
- 12) 医学部附属病院看護部との教育に関する連携（看護教育調整会議の実施）と臨地教育教員制度の実施

IV. 運営と教育活動

1. 運営組織（センター及び委員会組織図）



2. センター

センター名	看護実践研究センター
目的	本センターは本学部内、大学内をはじめ、外部機関及び地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに、その成果を発信することを使命とする。
構成員	佐々木綾子（センター長）、瀧井道明、赤澤千春、松尾淳子、カルデナス暁東、月野木ルミ、横山浩誉、檜原理恵、
活動計画	1. 研究実績の集約及び実践応用の機会に関する事項 2. 看護に関する研究情報の収集と内外への発信に関する事項 3. 看護実践研究の支援に関する事項 4. 看護生涯学習の支援に関する事項 5. その他、センター長が必要と認める事項
活動概要	1. 委員会の開催 11回の定例委員会と2回の臨時委員会を開催した。 2. 第3回市民公開講座の開催 2014年11月1日（土）、参加者は127名 テーマ：「がんとともに自分らしくいきるⅢ」、講師：花出正美（がん研有明病院緩和ケアセンター看護師長がん看護専門看護師）、上田育子（大阪医科大学附属病院看護部/がんセンター看護師長がん看護専門看護師） 3. 看護研究セミナーの開催 ・1回目：2014年6月14日（土）、参加者29名 テーマ1：「看護研究 Step1 研究課題の見つけ方」、講師：赤澤千春（大阪医科大学看護学部） テーマ2：「看護研究 Step2 研究デザイン」、講師：横山浩誉（大阪医科大学看護学部） ・2回目：2014年9月6日（土）、参加者7名 テーマ1：「看護研究 Step3 よくわかる量的研究」、講師：土手友太郎（大阪医科大学看護学部） テーマ2：「看護研究 Step4 よくわかる質的研究」、講師：瓜崎貴雄（大阪医科大学看護学部） 4. 国際交流事業の TMU 学生受け入れ 2014年7月7日～18日、TMU 学生5名を受け入れた。 5. 国際交流セミナー 2014年7月9日、16日の2回開催し、TMU 学生5名と看護学部学生の交流を行った。 6. 中山国際センター主催国際交流シンポジウム TMU 学生5名、看護学部の TMU 派遣学生3名が発表した。 7. 看護実践研究センター活動報告・研究活動報告会の開催 2015年3月14日（土）に開催した。

	1) 実践活動紹介 参加者 35 名（うち教員以外 13 名） 「中国におけるプライマリ・ヘルス・ケアを基盤にした地域看護の現状と課題」、 講師：呉 小玉（兵庫県立大学看護学部地域ケア開発研究所・看護学研究科） 2) 学部共同研究および研究活動報告 示説 11 演題、参加者：23 名（うち教員以外 17 名） 8. TMU への学生派遣関連 看護学部 2 年生 5 名を選抜し、2015 年 3 月 9～20 日派遣した。 9. 助成金公募への積極的取り組み 文部科学省「課題解決型高度医療人材プログラム」申請準備のためのワーキンググループに参加したが不採択であった。 10. 看護研究セミナー参加者の研究成果発表までの支援 3 月末で研究成果発表まで至った参加者はいなかった。 11. 卒業生のキャリアアップや研究支援体制の整備 2 月に同窓会が設立された。今後同窓会と協力し体制整備していく。
評価	1. 効果が上がっている事項 年間予定に沿い、平成 25 年度まで国際交流推進委員会の活動範囲であった内容も当センターに含め活発に活動した。 2. 改善すべき事項 1) 市民看護講座：2012～2014 年の 3 年間「がんとともに生きる」をメインテーマに開催した。次年度からは新テーマとして「免疫力」として「笑い」「食」「運動」をテーマとしていく。 2) 助成金公募：不採択であったが、GP 獲得のためのセミナーなど積極的取り組みを継続していく。日ごろからの情報収集・関係機関との連携など準備を行っていく。 3) 看護研究セミナー：一定の参加者はみられ、ニーズもあるが、参加者数増加が課題である。
将来に向けた発展方策・課題	1. 学部共同研究費も終了したことから、今後は国際交流の役目も含めて、外部資金獲得を図る必要がある。 2. 地域その他施設との連携は、その目的・レベルなどに違いがあるので、実現に困難が伴うが、今後も継続し連携を推進する。地域連携としては引き続き市民への公開講座など高槻市との連携は深めていく必要がある。 3. 卒業生のキャリアアップや研究支援にも取り組んでいく必要がある。同窓会が設立されたため、会との情報交換、研究支援を行っていく。 4. 附属病院との連携強化で研究支援を図っていく。 5. 教員の発表済ポスターの常設掲示など、研究成果の発信の場を設け、研究活動を活性化する。 6. 看護研究セミナーの形式を見直し、開催方式やテーマなど、大学院進学へのアプローチとなるような形にしていくなど新たな方式を展開する。

センター名	教育センター
目的	教育課程の円滑な遂行のために教育計画、教育環境整備、医看融合教育、授業評価、FD等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを目的とする。
構成員	泊祐子（センター長）、荒木孝治、鈴木久美、土手友太郎、草野恵美子、佐々木くみ子（12月まで）
活動計画	1. 新カリキュラムによる新科目の運営に関する課題 2. 学位授与の指標に関する考え方と方策 3. 医学部と共同して医看融合教育の推進 4. 教育環境整備の推進 5. FD活動 6. 授業評価の実施と活用 7. シラバスのペーパーレス化の評価
活動概要	1. 委員会の開催 全17回(4/11・30、5/22、6/18、7/25、8/5・7・28、9/17、10/15、11/19・26、12/17、1/21、2/6・18、3/18) 2. 新カリキュラムによる新科目の運営に関する課題 保健師国家試験受験資格者選択制に伴う改正後のカリキュラムへの対応 1) 実習計画調整及び履修指導、選択手順等の調整 (1) 学生への説明と手順：遠隔実習地になる場合の理解 (2) 広域統合看護学実習と看護実践発展実習の目的の決定 2) 4年次の実習と卒業演習を効果的に学ばせるための領域配置の調整 3. 学位授与の指標に関する考え方と方策 1) 卒業時到達目標の達成調査 2) カリキュラム評価の実施 4. 医学部と共同して医看融合教育の推進 1) 医看融合ゼミⅠ、Ⅱの計画運営 (1) 医看融合ゼミⅠ（1年生を対象 7/25実施） (2) 医看融合ゼミ（医学部6年生、看護学部4年生を対象 7/7実施） 全人的・包括的医療を提供するために、医療安全や倫理的判断等に関して討議し、医師と看護師の協働のあり方について考えを深めた。 2) 「医療人マインド（1単位）必修」科目の新設 3) 医看融合カンファレンス (1) 精神科クリクラ（医学部5年生）と精神看護学実習（看護学部3年生） (2) 産科クリクラ（医学部5年生）と母性看護学実習（看護学部3年生）

	2) セルフトレーニングコーナーの活用 実習室2の機材庫側にセルフトレーニングコーナーを新設した。自学自習を可能にするため、運用方法、物品管理および機器のマニュアルを作成した。 3) 平成27年度教育研究装置等施設整備事業計画を作成した。 6. FD活動 1) 教員と院生を対象に講演会（講師・テーマ）を2回開催した。 (1) 兵庫県立大学 片田範子氏・研究倫理 (2) 日本赤十字広島看護大学 小山真理子氏・看護カリキュラム 2) 新任教員へのオリエンテーション計画を作成した。 7. 授業評価の実施と活用 授業評価の活用方法や学生への返却と公開方法等を検討した。 8. シラバスのペーパーレス化の評価 昨年導入された電子シラバスのアンケート調査を学生と教員に実施した。 9. 新任教員へのオリエンテーション計画の立案
評価	1.効果が上がっている事項 1) 新カリキュラムによる新科目の運営強化 広域統合看護学実習および卒業演習の領域を、学生同士の協議で決定させたことにより、主体性と調整力を強化できた 2) 学位授与指標の再検討 教育目標と卒業時到達目標の一貫性を再検討し改善した 3) 医学部と看護学部の共同による医看融合教育の推進（医看融合ゼミⅠ） 両学部共通の必修科目「医療人マインド」を開設し、発展させることができた 4) 教育環境の整備 セルフトレーニングコーナーとして、場所と機器の確保し、自学自習を促すような支援体制を整備した 2.改善すべき事項 シラバスのペーパーレス化による学生の授業内容の理解不足への対策が望ましい。
将来に向けた発展方策・課題	1.カリキュラム評価の継続 カリキュラム等WGにて、改善したディプロマポリシーと各科目を対応させて、学年別目標を見直し、カリキュラム・マップの作成および卒業時到達度の評価方法を継続して検討する。 2.自学自習の促進プログラムの企画・運営 セルフトレーニングコーナー活用推進のための企画および学習支援を行う。 3.大学における医看融合教育の位置づけの明確化 医看融合教育の大学全体への周知と評価、インタープロフェッショナルプログラムとしての一貫性を持たせることが課題であり、教育総括会議に検討を依頼する。 4) 「卒業演習」および「広域統合看護学実習」の領域決定に関する評価

センター名	学生生活支援センター
目的	円滑な学生生活の提供をめざし、学生が抱える諸問題に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応により修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。
構成員	吉田久美子（センター長）、小林貴子、真継和子、瓜崎貴雄、西薊貞子、西尾ゆかり
活動計画	1. チューター活動の推進と学生が相談しやすい環境づくり 2. 公共性のある奨学金の開示促進 3. 意見箱運用の活性化 4. 教員・学生懇談会の活性化 5. 学生が自ら話し合い学生生活の問題を解決していくことの支援 6. 保健管理室との連携の充実 7. 学生生活支援方策に関する医学部と看護学部の情報共有の活性化
活動概要	定例会議（月 1 回）及び臨時会議の開催し、活動計画 1）～7）について審議、決定をし、運営してきた。 1. チューター活動の推進と学生が相談しやすい環境づくり 16 グループ編成とし、4 月に「一斉顔合わせ会」を実施。学生への個別対応は各チューター教員内で適宜実施されている。 2. 公共性のある奨学金の開示促進 1) 日本学生支援機構奨学金；2014 年度新規奨学生採用数：34 名 2) 看護学部独自の奨学金；大阪医科大学看護学部入学時特待生制度・大阪医科大学看護学部特別奨学金・大阪医科大学看護学部給付奨学金・大阪医科大学看護学部貸与奨学金 3) 公益財団法人小野奨学会「小野奨学金」：12 名 4) 公益財団法人奥村奨学会「奥村奨学金」：4 名 5) 公益財団法人じゅうしん育英会「じゅうしん育英会奨学金」：1 名 6) 大阪医科大学附属病院「学校法人大阪医科大学看護奨学金」：72 名 3. 意見箱運用の活性化 14 件の投書に対し随時対応した。内容は「保健師国家試験受験資格人数枠について（8 件）」「自習室等学習環境の整備に関するもの（2 件）」「施設整備について（3 件）」「その他（1 件）」であった。保健師国家試験受験資格の人数枠に関する案件は教授会にて検討し、教育センターとともに対応した。 4. 教員・学生懇談会の活性化 12 月 22 日（月）に開催。参加者数は学生 9 名、教員 13 名であった。講義室の環境改善への取組状況と課題について審議され、要望としてゴミ箱および電子レンジ等の設置、男子トイレの増築があがった。 5. 学生が自ら話し合い学生生活の問題を解決していくことの支援 学生が学生生活の様々な課題に対する相談窓口として対応した。 6. 保健管理室との連携の充実

	休養室の整備および運営上の管理方法の検討を実施。年間利用者数 13 名。欠席者に関する保健管理室と情報共有と学生の修学支援の実施。 7. 学生生活支援方策に関する医学部と看護学部の情報共有の活性化 医学部及び看護学部両センター長による連絡会議への定期的参加。 8. その他 学生の手引き、学生の留意事項・施設利用等にかかる冊子の見直しと作成。
評価	1.効果が上がっている事項 ・奨学金関連では、公共性のある日本学生支援機構ならびに各種財団、その他、各地の病院等施設からの奨学生募集の情報開示が促進されている。 ・学生が学生生活の様々な課題に主体的に取り組むことができるための支援として、今年度初めて、各学年の総代・副総代が一堂に会し、学年を越えて交流できる機会を設けることができ、情報交換が促進され学生生活上の課題共有、課題解決に向けた先輩からの助言を得ることができていた。 ・未受診等の連絡は、保健管理室から学生へ直接行うことでスムーズになった。 ・医学部・看護学部の連絡会議の定例化によって、両学部の学生生活支援に関する情報共有が可能となった。その結果、学生生活にかかわる手続き方法の相違等、現状課題がリアルタイムで共有でき、具体策の検討に繋がっている。 2.改善すべき事項 ・新年度チューターグループ顔合わせでは学年間の交流ができ情報交換の場となっているが、開催時の時間的制約や開催場所の空間的制約があり環境としては不十分である。目的の再確認とともに一斉開催の是非を含め運営方法について検討する必要がある。 ・学校教育基本法の改正に伴い大阪医科大学学生等懲戒規定が平成 27 年 4 月 1 日より施行するが、これを契機に学生の本分、社会的責任を自覚した主体性のある学生生活を送れるよう、学生生活支援方法の検討が必要となる。 ・大学院開学に伴い学習スペースの確保が困難であり、講義室、演習室は有限であるが、さらに効果的かつ有効利用の検討が求められている。 ・チューターグループの顔合わせ、総代・副総代を中心に縦断的な学年間の交流の推進、学生との懇談会等を活用した意見交換を積極的に行う等、学生が主体的に快適な学生生活を送ることができる支援体制づくりの推進が重要である。 ・学生と教員との懇談会については、学生と教員ともに参加しやすく、交流や意見交換が十分にできるような開催日時の調整が課題である。
将来に向けた発展方策・課題	学生がより快適な学生生活を送るために、主体的な学生生活における課題について取り組むことができることを主眼におき、今後も学生との意見交換を積極的かつ丁寧に行うことで学生・教職員との信頼関係の強化を図る。また、医学部と看護学部の学生生活に関わる手続き等の共通化を図り、基準の一本化に向けた方向性を検討し、具現化していく。

3. 委員会

委員会名	実習調整委員会
目的	看護学実習に関わる事項の調整をするため
構成員	荒木孝治(委員長)、赤澤千春、小林貴子、竹村淳子、真継和子、月野木ルミ（草野恵美子）、西頭知子、畑中あかね、西尾ゆかり、原明子
活動計画	1. 附属病院との実習打合せ会議企画・運営、実習連絡協議会の企画・運営、今後の実習連絡協議会のあり方の検討と調整 2. 看護学実習要綱（共通事項）、各領域実習要項、広域統合看護学実習要項、看護実践発展実習要項等の修正ととりまとめ 3. 領域別実習の学生のグループ編成、実習オリエンテーションの企画運営、本年度の実習全体に関わる調整 4. 新カリキュラムに伴う次年度実習計画の調整 5. 次年度実習関連予算の取りまとめ 6. 実習時の事故に関する確認事項の検討の継続ととりまとめ
活動概要	4月：看護学実習要綱（共通事項）の作成・印刷・配布 5月：領域別実習要項の作成・印刷・配布 6月：6/26 附属病院実習連絡会議の開催 7月：3年生学生の領域別実習グループ表(案)の作成 8月：夏季休暇前の3年生の領域別実習オリエンテーションの実施 9月：平成27年度予算案の作成（最終案は10月に終了） 10月：平成27年度実習計画案の作成 11月：平成27年度附属病院での実習に関する看護部との調整 12～1月：広域統合看護学実習要項の作成、同実習に関する附属病院看護部との調整 2月：事故防止と事故発生時の対応修正案の作成（完了は3月） 3月：3/19 実習連絡協議会の開催 平成27年度「看護実践と理論の統合」の準備終了
評価	1. 効果が上がっている事項 学生の実習中の事故（アクシデント・インシデント・ヒヤリハット等）の件数が、学部教員の協力により、昨年度に引き続き減少している。本年度は看護学実習事故報告書の改訂に着手し作業を終了した。 2. 改善すべき事項 他の委員会とも協力しながら学生の事故についての分析と対策を強化していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	発展方策と課題として、1.実習関連予算の効率的な運用を図ること、2. 実習調整委員会の所掌事項に学生の実習中の事故に関する分析と対策の検討を加えること等があげられる。

委員会名	看護学部ウェブサイト委員会
目的	大阪医科大学看護学部のウェブサイトを開発・管理運用することを目的とする
構成員	佐々木綾子（委員長）、小林道太郎、川北敬美、葉山善史（学務部）
活動計画	1. 看護学部ウェブサイトの開設及び廃止の決定 2. 看護学部ウェブサイトの公開停止及び公開停止後の公開再開の決定 3. 看護学部ウェブサイトの更新内容の審査と承認 4. 看護学部ウェブサイトの作成に関する実務を行う業者の決定及びその監督 5. 看護学部ウェブサイトへのリンクの承認及びその取り消し 6. 利用者等から寄せられる要望や意見の検討と反映 7. 看護学部ウェブサイト運用に係る管理及び予算の確保
活動概要	1. 委員会の開催 定例会議を 10 回開催した 2. 研究領域更新 3. 教育内容（教員一覧）・教育内容（教員からのメッセージ）更新 4. 看護実践研究センターからの情報適宜更新 5. 看護学部ホームページ更新（特に情報公開に関する内容である、国家試験結果、就職先情報を新たに掲載） 6. 英文ホームページ作成（①看護学部トップ②学部長ご挨拶③3つのポリシー④教育理念⑤教育の特徴⑥組織⑦教員一覧（教員紹介の詳細情報は現ページ）⑧研究領域（各領域のリンク先は現ページ）⑨中山国際センター（英語ページにリンク）⑩アクセスマップ⑪キャンパスマップ） 7. 学術情報（研究雑誌）更新 8. 同窓会ページを新たに作成 9. サイトの定例更新に関するマニュアルを新たに作成
評価	1. 効果が上がっている事項 年間予定に沿って活動した。特に英文ホームページを新規に作成できたことは、国際的な情報発信が期待できる。 2. 改善すべき事項 引き続き必要な情報を必要な人へ、タイムリーに提供するホームページ運営、管理を行っていく。
将来に向けた発展方策・課題	1. 学生生活に関することを充実させる 2. 各教員と領域のホームページをさらに充実させる 3. 就職・国試情報を充実させる

委員会名	看護研究雑誌編集委員会
目的	おもに大阪医科大学看護学部の教員がその研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿・査読、編集、出版等に関わる業務を行う
構成員	田中克子、元村直靖、鈴木久美、草野恵美子
活動計画	・ 投稿規定の変更：5.利益相反の項を設ける ・ 研修会の企画 ・ 大阪医科大学看護研究雑誌」第5巻の発行
活動概要	・ 計7回の委員会を開催し、下記活動についての審議・調整等を行った。 ・ 投稿規定の変更：5.利益相反の項を設けた。附則として規定改廃の項を設けた。 ・ PeerReviewWork に関する研修会を開催した。 日時：2014年7月16日（水）16：00-17：00（第4回 JANS セミナー報告：看護論文の質の向上のための PeerReviewWork の報告会）講師鈴木久美委員 場所：講義室1 ・ 「大阪医科大学看護研究雑誌」第5巻の発行：原著4編、研究報告4編、資料2編の計10編の論文と特別寄稿1編を掲載した。
評価	1.効果が上がっている事項 今年度は論文の質の向上を目指して編集者の役割に関してFDを行った。昨年度の査読体制の変更も行い、編集業務もスムーズになった。今年度は、題目登録と論文投稿の期限を投稿規定に沿ってほぼ順守することができた。 2.改善すべき事項 英文の論文に関して適切な査読者を確保することが今後の課題である。また大学院生の投稿に関しては、教員の指導をえて、準備することをオリエンテーションする必要性もあると思われる。
将来に向けた発展方策・課題	取り下げた論文の4編の内、3編が査読中に取り下げられた。期限を厳守したことも一因と考えられる。題目登録の際に期限内での論文作成が可能かどうか十分な検討を促す、等の対策が必要と考えられる。査読者に関しては、規定回数以上に査読を依頼した論文も多い。査読者に対する負担も考えて、編集者のほうで検討する必要もある。最終的に原稿制限枚数が大幅に超えた論文もあったので、投稿時に注意喚起するとともに、場合によっては投稿規定にのっとり、規定枚数以上は著者負担の方向で検討する。

委員会名	備品管理委員会
目的	大阪医科大学看護学部の授業運営に必要な物品の管理を行う
構成員	泊祐子（委員長）、西菌貞子、丹治恵実、肥後雅子
活動計画	1. 授業運営にかかる教育教材が有効に効果的に活用できるよう物品管理を行う。 各領域別収納場所および日常管理方法の企画案を策定する。 2. 学校教育関連物品の所在を全教員が確認出来る管理台帳の整理を行う 3. 限られた学校経費を有効に活用するためデッドストックを無くす 4. 費用の削減を目指し、物品購入管理方法の見直しを行う
活動概要	前年度担当者からの引継(2014/6/25)；領域保管の物品リストの未整理、消耗品のデッドストック存在が課題となっていることが引き継がれた。 1. 7月から3月まで、計16回の委員会議と、十数回にわたる作業を行った。 2. 今まで未着手であった法律管理（保助看法、財産法）にかかる物品と現物との紐付け作業を行い、保有物品の現状把握ができるよう管理台帳を作成した。 3. 教育教材を活用した授業が効率良く運営(経費削減と消耗品の在庫管理明確化)ができるよう、共通管理物品と領域管理物品を明確にした。3/13、全領域の教員協力を得て、実習室内、廊下壁面、器材庫等の収納場所の区分け整備を行った。 4. 感染廃棄物の廃棄管理方法の見直しを行った。鍵付きロッカーでの一箇所集約保管管理、廃棄運搬方法の徹底周知に取り組んだ。 5. 消耗品の多量デッドストックの解消を目指して、本学物流センターの定数化運用システム（SPD）を活用し、共通物品定数化運用への基盤作りを行った。同システムの運用は2015/4/1から開始できる準備を整えた。 6. 壁面収納の共通物品（シーツ、タオル類）も定数保管とし、使用状況が一目で確認できるよう整備した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 法律管理（財産法、保助看法）にかかる物品の点検作業と管理台帳の作成によって、保有物品の現状把握が可能になってきた。 2) ラベル付物品による定数化運用によって、少スペースで多種多様な物品の管理が可能となってきている。在庫確認が確実に行え、デッドストックは減量した。 3) 共通管理物品と領域管理物品を明確にすること教育教材を活用した授業が効率良く運営できるようになっている。 2. 改善すべき事項 管理台帳の運用およびSPD運用の開始当初多少混乱が生じる可能性がある
将来に向けた発展方策・課題	1. 法律管理（財産法、保助看法）にかかる物品管理が、正確に行えるよう、管理台帳を活用した点検管理を継続的に行う必要がある。 2. SPDが円滑な運用となるよう、日常の確認調整が必要である。

委員会名	就職支援委員会
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職や進路の支援
構成員	土手友太郎（委員長）、道重文子、川北敬美、丹治恵実
活動計画	1. 学生にキャリアサポートルームの利用を促進させる。 2. 多様な事情を持つ学生への個別対応を就職支援委員が直接対応し、適切な就職指導を行う。 3. 就職支援のためのガイダンス・就職啓発セミナーの企画・運営を行う。 4. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、学生に就活に関する情報を収集させる。 5. 来校人事担当者との対応等の就職関連情報を教員・学生へ公開する。 6. HP を作成する。
活動概要	1. キャリアサポートルームのドア窓を透明ガラスへ変更した。 2. 同室にて相談日を設定し、委員が個別相談に応じた。 3. ガイダンスを年2回実施した。まず7月にナース専科(株)による進路の選択、次に2月にはナース専科(株)のガイダンスと、第1期卒業生の3種の看護職者による講演およびを実施した。 4. 在校生および卒業生の合同昼食会を行った。費用はPA会費から支出した。同窓会の会員を卒業生、準会員を在校生とし、委員長と学部長が顧問となった。 5. 就職情報の定期便として来校施設一覧・パンフレット等の内容を学生、教員両方に発信する。また来校施設の応接録を委員が記載し、閲覧用に同室に保管した。 6. 看護学部 HP にバナーを作成し、卒業生の就職状況（主な就職先）を掲載した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) キャリアサポートルームの利用者が徐々に増加中である。 2) 全体ガイダンスでは指導しにくい内容をプライバシーに配慮して指導できた。 3) 進路選択、面接作法、履歴書の書き方の基本的事項をおおよそ周知できた。特に卒業生の講演内容は、身近な体験談が、とても役に立つ情報として受け入れられた。 4) 卒業生と在校生の交流により親睦が高まり、様々な情報交換ができた。 5) 就職および募集状況について学内外に発信できた。 2. 改善すべき事項 ガイダンスへの自主的な出席率が低い。
将来に向けた発展方策・課題	土曜日の9時からのガイダンスへの出席率を向上させるため、卒業生の講演は授業単位として組み込み、さらにその直後に昼食会を配置した。しかし、講演のみで昼食会にも参加しない学生や、食後には下校する学生が少なからずいた。原則、自主的な参加が望ましいが、ガイダンスは年に2回程しか開催できる機会がないため、参加を促進させる有効な方策を検討すべきである。

委員会名	国家試験対策委員会
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す
構成員	瀧井道明（委員長）、草野恵美子、佐々木くみ子（26 年 12 月末迄）、山内栄子、西菌貞子、檜原理恵
活動計画	1. 4 年生全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2. 成績不振者に対するチューターによる学習指導の強化 3. 平成 26 年度国家試験対策の模試や対策講座の実施（対策講座の数を増やす） 4. 平成 27 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成
活動概要	1. 役割分担 1) 全体総括、教授会審議・学科会議協議・報告関係、予算関連・瀧井道明 2) 看護師対策講座・山内栄子、檜原理恵 3) 看護師模試・西菌貞子 4) 保健師対策講座・模試、前年度不合格者対応・草野恵美子 5) 助産師対策講座・模試、キャリアサポートルーム整理・佐々木くみ子 2. 委員会の開催（計 10 回）と主要議題 “国家試験対策のスケジュールと運用”については毎回の委員会の議題とした。その他、模試の結果の分析や成績不振者の選定と対応などを議題とした。昨年度の小グループ制学習会に代わって、チューター教員による学習指導の役割を強化した。看護師模試で成績下位の約 20 名は対策講座受講時に前方の座席に座らせるようにしたが、学習意欲が刺激されたという意見が多く高評価であった。 3. 模擬試験、対策講座などの年間実施状況 看護師対策としては、主として東京アカデミー依頼して、模試 5 回、講座 41 回を実施した。また、保健師対策としては、模試 3 回、講座 18 回、助産師対策としては、模試 2 回、セミナー 2 回を実施した。
評価	1. 効果が上がっている事項 1) 第 104 回看護師国家試験は受験者 83 名中合格者 83 名、2) 第 101 回保健師国家試験は受験者 83 名中合格者 83 名、3) 第 98 回助産師国家試験は受験者 4 名中合格者 4 名と 100%の合格率であった。なお、国家試験終了後に自己採点報告会を行い、この時点で上記の合格状況の予想は可能であった。 2. 改善すべき事項 学生が国試対策の模試や講座を欠席する際の連絡体制など事務的な事項の周知が不徹底であったので、今後学生に周知していく必要がある。
将来に向けた発展方策・課題	本年度の合格率 100%に油断することなく、この好成績を今後何年も継続して維持していくことが目標である。本試験直前の模試での最下層の学生の底上げが今後重要な課題である。国家試験対策委員は年間スケジュールと業務を把握しているが、他の教員の先生方も理解して頂き、チャーターとして担当の学生の指導に継続して熱心に取り組んで頂けることが望まれる。

委員会名	年報編集委員会
目 的	看護学部年報編集に関わる事項の調整をする
構成員	道重文子（委員長）、竹村淳子、小林道太郎、肥後雅子
活動計画	1. 平成 25 年度年報の集約、電子媒体での発行 2. 平成 26 年度年報の取り纏め 3. 年報の活用状況の調査
活動概要	1. 委員会の開催 9 回開催 2. 2013 年（平成 25 年度）年報の発行 ・平成 26 年 7 月 31 日発刊 ・冊子は 10 部作成し関連部署には冊子、看護学部教員へは CD で配布 3. 年報編集委員会内規の作成 4. 年報の活用状況の調査 ・平成 26 年 11 月にアンケート調査を実施した 5. 2014 年（平成 26 年度）年報作成について ・看護学研究科開学に伴う目次の見直し ・作成依頼
評 価	1. 効果が上がっている事項 1) アンケート結果から年報の利用状況がわかった。 2) 各委員会や教員の活動についての振り返りができ、活動の活性化のための情報提供をしている。 2. 改善すべき事項 ・年報の配布方法について CD 配布の続行の是非やホームページでの公開について検討する
将来に向けた発展方策・課題	1. 2014 年度年報の発行

委員会名	広報委員会
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学広報・入試部、本学部各種委員会と連携を図り、本学部の受験者を募集する。
構成員	山内栄子（委員長）、松尾淳子、カルデナス暁東、西頭知子
活動計画	①オープンキャンパスの企画・運営、②看護学部案内書の企画・作成、③進学ガイダンス出向の調整・実施、④看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介を計画した。また、新規に、⑤看護学部案内書サブツールの企画・作成、⑥学校訪問の調整・実施を計画した。
活動概要	定例会議を9回、広報・入試部との合同会議を6回の計15回を開催し、広報・入試部と連携しながら、計画に則って活動を行った。 1. オープンキャンパスの企画・運営：オープンキャンパス3回と入試相談会1回を企画、運営した。新規に学生の成果物や教員の研究の展示を企画した。 2. 看護学部案内書の企画・作成：実習に関する特集と、多数の教員の教育・研究活動の紹介を企画した。 3. 進学ガイダンス出向の調整・実施：6件のガイダンスに延べ10名の教員に輪番制でガイダンスでの相談及び模擬講義を依頼した。 4. 看護学部の教育・研究活動の学内外への紹介：本学の広報冊子の取材を受け、本学の教育・研究活動や委員会活動を紹介した。 5. 看護学部案内書サブツールの企画・作成：学生生活の紹介を主としたサブツールを新規に作成した。 6. 学校訪問の調整・実施：訪問マニュアルの作成と訪問前説明会を開催した。その他、大学見学1件に対応した。
評価	1. 効果が上がっている事項 上記の活動、特に看護学部案内書サブツールの新規作成や学校訪問マニュアルの新規作成により、学部設置後4年をかけて構築された本学の教育理念を具現化した教育活動とその成果及び、新たに設置された大学院について周知できた。それにより、本学の教育・研究活動の周知の強化を図ることができたとともに、質の高い受験者を獲得するための活動の基盤が整備できた。 2. 改善すべき事項 学内外へ看護学部の教育や研究の取り組みを広く周知し、それを通して受験者募集をする活動が不足していた。
将来に向けた発展方策・課題	受験者募集が激化する中、本学の教育理念に見合う質の高い受験者を獲得するためには、特色を明示した教育・研究活動の学内外への周知がさらに必要である。そのため、看護実践研究センターやウェブサイト委員会等の学部内の他の委員会と協働し、看護学部の教育や研究活動を広報していく。また、卒業生を活用して広報活動を強化していく。

委員会名	卒業研究に関する倫理審査会
目 的	看護学部卒業研究に関する倫理審査会として設置された。人を対象とする研究において、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理上の指針を基に倫理審査を行うことを目的とする。
構成員	泊祐子（委員長）、鈴木久美、元村直靖、真継和子、山内栄子、瓜崎貴雄、川北敬美
活動計画	- 卒業研究倫理審査の実施と評価 - 卒業研究倫理審査に関する FD の計画と開催：学部内での研究における倫理的配慮に関して、対象者の心理的負担に関する受けとり方の共通理解を図るため - 卒業研究倫理審査プロセスの明確化：申請書類様式の改善
活動概要	- 倫理審査の実施 2 回（6 月、7 月）の卒研倫理審査の機会を設け申請書は合計 34 件提出された。 - 会議は計 8 回会議を開催し、倫理審査と関連する議題を協議した。 - 審査会には学生の出席を求めて、学生自らが倫理的配慮について学べる機会とした。また、修正の内容が明確になるように審査会の最後にコメントを復唱し確認をとった。その結果、審査期間の短縮につながった。 - FD の開催 - 倫理に関する知識と考え方を向上させるため、教育センターと共同で講演会を開催した。 - テーマ：研究倫理 講師：片田範子氏（兵庫県立大学大学院看護学研究科長） - 参加人数：教員 30 人、大学院生 5 人 - 審査方法の充実・改善のために審査プロセスや書類の見直し - 倫理申請がスムーズにいくために申請書類作成のためのチェックリストの見直し改定 - 申請のフローチャートの修正改定：審査プロセスを詳細に示した。
評 価	- 効果が上がっている事項 - 審査会前に会議をもち、意見集約していたため、審査会の時間が短縮できた。 - 審査会への学生の同席は、卒業演習への責任性や倫理的配慮に対する意識の向上につながったと考えられる。 「研究倫理」に関する知識・意識の向上のための講演会の開催は、倫理と研究計画の妥当性の審議は同じでよい等共通認識を持つことができたと評価できる。 - 改善すべき事項 - 学生の倫理的配慮に関する知識・意識の向上のために科目「看護研究」の担当者との共同 「卒業演習」と「看護研究法」が同時期に開講されるので、研究計画作成の準備性に学生間の差が大きい。 ・本審査結果の通知メールを指導教員に行う際に個人アドレスを使用したため、配信した委員に質問や問い合わせが寄せられたので、次年度に向けて委員会のアドレスを取得した。このアドレスの使用により問い合わせ窓口の一元化を図れると思われる。
将来に向けた発展方策・課題	申請時期の 6～7 月は 4 年次実習が集中する時期でもあるので、卒業演習スケジュールを鑑みて卒業演習に求める学習目標と内容を学部全体で議論する機会（FD 等）を設ける。そのことにより卒業演習を通しての卒業時に求める学士課程における研究の基礎能力の合意や倫理的配慮等人権への配慮意識を共通理解できると思われる。

4. 教育活動

1) 授業科目一覧

【2012 年入学生～】

区分	授 業 科 目	単位数	必修・ 選択	講 義 演 習 実 習 別	受 講 学 年 次 及 び 単 位 数			
					第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基 礎 科 目	人 間 理 学	心理学	2	必修	講義	2		
		生物学	2	選択	講義	2		
		化学	2	選択	講義	2		
		物理学	1	選択	講義	1		
		くらしの中の倫理と法律	1	選択	講義	1		
		大阪を学ぶ	1	選択	講義	1		
		哲学	1	選択	講義	1		
		くらしと文学	2	選択	講義	2		
		教育学	2	選択	講義			2
	健 康 科 学	体育Ⅰ *	1	選択	演習	1		
		体育Ⅱ *	1	選択	演習	1		
		セクシュアリティと看護 ▲	1	選択	講義		1	
	社 会 理 学	医学概論	2	選択	講義	2		
		キャリアマネジメント	1	必修	講義	1		
		健康科学概論	2	必修	講義	2		
		情報リテラシー	1	必修	演習	1		
		データ処理演習 *	1	選択	演習			1
		統計学	2	必修	講義	2		
		日本国憲法 *	2	選択	講義	2		
		くらしと社会・環境	2	選択	講義	2		
		くらしと経済	2	選択	講義	2		
専 門 基 礎 科 目	異 文 化 理 解	くらしと安全・危機管理	2	選択	講義		2	
		英語Ⅰ（英語を聞く）	1	必修	講義	1		
		英語Ⅱ（英語で話す）	1	必修	講義	1		
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）	1	必修	講義		1	
		英語Ⅳ（英語を豊かに）	1	必修	講義		1	
		国際言語文化	2	選択	講義	2		
		医工薬連環科学遠隔講座		自由	講義			
	人 間 基 礎 理 学	人間関係論	1	必修	講義	1		
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	2	必修	講義	2		
		感染と免疫	1	必修	講義	1		
		からだと栄養	2	必修	講義	2		
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）	2	必修	講義	2		
		こころの仕組みと働き	1	必修	講義	1		
		フィジカルエグザミネーション	1	必修	演習	1		
		からだとくすりの働き	2	必修	講義		2	
		病気の成り立ち	2	必修	講義		2	
		病気の診断	2	必修	講義		2	
目	解	病気の治療	2	必修	講義		2	
		食生活論	1	選択	講義			1
		遺伝とカウンセリング ▲	1	選択	講義			1
		リプロダクションと看護 ▲	1	選択	演習		1	

◎は看護師国家試験受験資格のみの希望者は必修 △は保健師国家試験受験資格希望者は必修
▲は助産師国家試験受験資格希望者は必修 *は養護教諭2種免許申請資格希望者は必修

区分		授 業 科 目	単位数	必修・ 選択	講 義 演 習 実習別	受講学年次及び単位数			
						第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専門 基礎 科目	社会 理解	保健医療福祉概論	2	必修	講義	2			
		公衆衛生学・疫学	2	必修	講義		2		
		地域救命救急	1	選択	講義			1	
		ヘルスプロモーション論	1	選択	講義			1	
		医療倫理学	1	必修	講義			1	
		リスクマネジメント	1	必修	講義				1
	異文化 理解	医療英語	1	必修	演習			1	
		原著講読	1	必修	演習				1
専門 科目	看護 の 基 盤	看護学概論	2	必修	講義	2			
		日常生活援助技術	3	必修	演習	3			
		基礎看護学実習Ⅰ	1	必修	実習	1			
		看護アセスメント	1	必修	演習		1		
		治療過程に伴う援助技術	2	必修	演習		2		
		基礎看護学実習Ⅱ	2	必修	実習		2		
		看護管理	1	必修	講義				1
		看護教育	1	必修	講義				1
	生 活 支 援	老年看護学概論	2	必修	講義		2		
		老年看護学援助論	1	必修	演習		1		
		老年看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		老年保健看護学実習	2	必修	実習			2	
		老年看護学実習	2	必修	実習			2	
		母性看護学概論	2	必修	講義	2			
		母性看護学援助論	1	必修	演習		1		
		母性看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		母性看護学実習	2	必修	実習			2	
	療 養	成人看護学概論	2	必修	講義	2			
		急性期成人看護学援助論	1	必修	演習		1		
		急性期成人看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		急性期成人看護学実習	2	必修	実習			2	
		慢性期成人看護学援助論	1	必修	演習		1		
		慢性期成人看護学援助方法	1	必修	演習		1		
		慢性期成人看護学実習	2	必修	実習			2	
		成人保健看護学実習	1	必修	実習			1	
	支 援	小児看護学概論	2	必修	講義		2		
		小児看護学援助論	1	必修	演習		1		
		小児看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		小児看護学実習	2	必修	実習			2	
		精神看護学概論	2	必修	講義		2		
		精神看護学援助論	1	必修	演習		1		
		精神看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		精神看護学実習	2	必修	実習			2	

区分	授 業 科 目		単位数	必修・ 選択	講 義 演 習 実習別	受講学年次及び単位数			
						第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目	地域 支援	在宅看護学概論	2	必修	講義		2		
		在宅看護学援助論	1	必修	演習		1		
		在宅看護学援助方法	1	必修	演習			1	
		在宅看護学実習	2	必修	実習			2	
		公衆衛生看護学概論	2	必修	講義		2		
		公衆衛生看護学活動論	2	必修	講義		2		
		公衆衛生看護学活動方法 △	1	選択	演習			1	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	1	必修	実習			1	
	看護 実践 発展 科目	看護と生体診断法	1	選択	演習				1
		先端医療に伴う看護技術	1	選択	演習				1
		医療カウンセリング	1	選択	演習				1
		緩和ケアと代替・補完療法	1	選択	演習				1
	保健 師 科目	公衆衛生看護学管理論 △	2	選択	講義			2	
		公衆衛生看護学演習 △	1	自由	演習				1
		公衆衛生看護学実習Ⅱ △	4	自由	実習				4
	助産 師 科 目	助産学概論 ▲	2	選択	講義		2		
		助産診断・技術学Ⅰ ▲	1	選択	演習			1	
		助産診断・技術学Ⅱ ▲	3	自由	演習				3
		助産管理 ▲	1	自由	講義				1
		助産学実習 ▲	8	自由	実習				8
目 録	統 合	家族看護学	2	必修	講義			2	
		チーム医療論	1	必修	講義			1	
		看護実践と理論の統合	2	必修	演習			2	
		看護研究法	1	必修	講義				1
		卒業演習	3	必修	演習				3
		災害看護論	1	選択	講義			1	
		異文化看護入門	1	選択	演習				1
		広域統合看護学実習	2	必修	実習				2
		看護実践発展実習 ◎	2	選択	実習				2
計						54	43	41	36

但し、公衆衛生看護学実習Ⅱおよび助産学実習選択者は、2単位を広域統合看護学実習の単位とする。

【2010・2011 年入学生】

★助産師国家試験受験資格希望者は必修 *養護教諭2種免許申請希望者は必修

区分		授 業 科 目	必修・選択	講 義 演 習 実習別	受講学年次及び単位数			
					第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
基 礎 科 目	人 間 理 学 解	心理学	必 修	講義	2			
		生物学	選 択	講義	2			
		化学	選 択	講義	2			
		物理学	選 択	講義	1			
		くらしの中の倫理と法律	選 択	講義	1			
		大阪を学ぶ	選 択	講義	1			
		哲学	選 択	講義	1			
		くらしと文学	選 択	講義	2			
		教育学	選 択	講義			2	
		体育Ⅰ *	選 択	演習	1			
		体育Ⅱ *	選 択	演習	1			
		セクシュアリティと看護 ★	選 択	講義		1		
		医学概論	選 択	講義	2			
	社 会 理 学 解	キャリアマネジメント	必 修	講義	1			
		健康科学概論	必 修	講義	2			
		情報リテラシー	必 修	演習	1			
		データ処理演習 *	選 択	演習				1
		統計学	必 修	講義	2			
		日本国憲法 *	選 択	講義	2			
		くらしと社会・環境	選 択	講義	2			
		くらしと経済	選 択	講義	2			
	異 文 化 理 学 解	くらしと安全・危機管理	選 択	講義		2		
		英語Ⅰ（英語を聞く）	必 修	講義	1			
		英語Ⅱ（英語で話す）	必 修	講義	1			
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）	必 修	講義		1		
		英語Ⅳ（英語を豊かに）	必 修	講義		1		
	専 門 基 礎 科 目	国際言語文化	選 択	講義	2			
		医工薬連環科学遠隔講座	自 由	講義				
		人間関係論	必 修	講義	1			
		からだの仕組みと働きⅠ（基礎）	必 修	講義	2			
		感染と免疫	必 修	講義	1			
		からだと栄養	必 修	講義	2			
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）	必 修	講義	2			
		こころの仕組みと働き	必 修	講義	1			
		フィジカルエグザミネーション	必 修	演習	1			
		からだとくすりの働き	必 修	講義		2		
		病気の成り立ち	必 修	講義		2		
		病気の診断	必 修	講義		2		
		病気の治療	必 修	講義		2		
	理 学 解	食生活論	選 択	講義			1	
		遺伝とカウンセリング ★	選 択	講義				1

区分		授 業 科 目	必修・選択	講 義 演 習 実 習 別	受講学年次及び単位数			
					第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専門基礎科目	社会理解	保健医療福祉概論	必修	講義	2			
		公衆衛生学・疫学	必修	講義		2		
		医療倫理学	必修	講義			1	
		リスクマネジメント	必修	講義				1
		地域救命救急	選択	講義			1	
		ヘルスプロモーション論	選択	講義			1	
	異文化理解	医療英語	必修	演習			1	
		原著講読	必修	演習				1
専門科目	看護の基礎盤	看護学概論	必修	講義	2			
		日常生活援助技術	必修	演習	3			
		基礎看護学実習Ⅰ	必修	実習	1			
		看護アセスメント	必修	演習		1		
		治療過程に伴う援助技術	必修	演習		2		
		基礎看護学実習Ⅱ	必修	実習		2		
		看護管理	必修	講義				1
		看護教育	必修	講義				1
	生活支援	老年看護学概論	必修	講義		2		
		老年看護学地域実習	必修	実習		1		
		老年看護学援助論	必修	演習		1		
		老年看護学援助方法	必修	演習			1	
		老年看護学実習	必修	実習			2	
		母性看護学概論	必修	講義		2		
		母性看護学援助論	必修	演習		1		
		母性看護学援助方法	必修	演習			1	
		母性看護学実習	必修	実習			2	
	療養	成人看護学概論	必修	講義		2		
		急性期成人看護学援助論	必修	演習		1		
		急性期成人看護学援助方法	必修	演習			1	
		急性期成人看護学実習	必修	実習			2	
		慢性期成人看護学援助論	必修	演習		1		
		慢性期成人看護学援助方法	必修	演習		1		
		慢性期成人看護学実習	必修	実習			2	
		小児看護学概論	必修	講義		2		
	支援	小児看護学援助論	必修	演習		1		
		小児看護学援助方法	必修	演習			1	
		小児看護学実習	必修	実習			2	
		精神看護学概論	必修	講義		2		
		精神看護学援助論	必修	演習		1		
		精神看護学援助方法	必修	演習			1	
		精神看護学実習	必修	実習			2	

区分		授 業 科 目	必修・選択	講 義 演 習 実習別	受講学年次及び単位数			
					第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
専 門 科 目	地 域 支 援	在宅看護学概論	必 修	講義		2		
		在宅看護学援助論	必 修	演習		1		
		在宅看護学援助方法	必 修	演習			1	
		在宅看護学実習	必 修	実習			2	
		地域看護学概論	必 修	講義		2		
		地域看護学援助論	必 修	演習		2		
		地域看護学援助方法	必 修	演習			2	
		地域看護管理論	必 修	講義			2	
		地域看護学実習Ⅰ	必 修	実習			2	
		地域看護学実習Ⅱ	必 修	実習				1
	統 合	家族看護学	必 修	講義			2	
		チーム医療論	必 修	講義				1
		看護実践と理論の統合	必 修	演習			2	
		看護研究法	必 修	講義				1
		総合実習	必 修	実習				5
		卒業演習	必 修	演習				4
		災害看護論	選 択	講義			1	
		異文化看護入門	選 択	講義			2	
	助 産 師 科 目	助産学概論	★	自 由	講義		1	
		助産診断・技術学Ⅰ	★	自 由	演習		1	
		助産診断・技術学Ⅱ	★	自 由	演習			2
		助産管理	★	自 由	講義			1
		助産学実習	★	自 由	実習			7
合 計					50	45	40	30

2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	道重文子、松尾淳子、小林道太郎、川北敬美、原 明子、炭本佑佳
担当科目	くらしの中の倫理と法律、哲学、キャリアマネジメント、国際言語文化 看護学概論、日常生活援助技術、看護アセスメント、治療過程に伴う援助技術、 看護管理、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、卒業演習、総合実習
現状の説明	1.くらしの中の倫理と法律、哲学では、各分野の基本的な事項を、医療・看護との関連も含めて講義した。国際言語文化では、ドイツ語の入門を行うとともに、ドイツ等の異文化圏の歴史・文化を論じた。 2.看護アセスメントでは糖尿病性網膜症のため硝子体手術後 1 日目の事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した。 3.日常生活援助技術、治療過程に伴う援助技術では、附属病院看護部の臨床指導者等が毎回 1 名の演習の指導に参加しユニフィケーションをおこなった。 4.基礎看護学実習Ⅰでは、看護実践発展領域の教員とともに指導に当たった。 5.基礎看護学実習Ⅱでは、2 グループに分け、8 病棟を使って、9 月と 2 月に学生は 1 週間ずつ実習した。実習補助員 1 名と 5 名の教員で指導した。 6.卒業演習は各教員が 2～3 名の学生を担当し、1 名 1 テーマで卒業論文を作成した。 7.総合実習は、附属病院、彩都友誼会病院またはガラシア病院の緩和ケア病棟、第二東和会病院の医療療養型病床の 3 か所の異なった施設で実施した。附属病院では、夜勤実習も経験した。
点検評価	1.効果が上がっている事項 1) くらしのなかの倫理と法律、哲学、国際言語文化では、講義を通じて関連事項への学生の関心を喚起することができた。 2) 1 年後期の日常生活援助技術と 2 年前期の治療過程に伴う援助技術の演習を通して附属病院の臨床指導者らとユニフィケーションをはかることができた。学生は、臨床指導者から現場での例なども聞き今後の学習への動機づけになっている。 2.改善すべき事項 1) 基礎看護学実習Ⅱでは、アセスメント力や看護ケアの実践で個人差が出ているため、看護アセスメントの演習では個人学習が必要とされるアセスメントの段階での指導強化を図り、看護技術能力の確認を行っていく。
将来に向けた発展方策・課題	臨床指導者らとの協働による基礎看護技術教育を今後も実践し、高い実践能力を身に付けられる方法や学生個々の看護技術能力を確認するため教育方法を検討していく。

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春、山内栄子、肥後雅子
担当科目	成人看護学概論、急性期成人看護援助論、急性期成人看護学援助方法、急性期成人看護学実習、統合実習、卒業演習、災害看護論
現状の説明	学生たちは1回生の成人看護概論で成人看護一般の概論の中で健康破綻をする対象に対する概論を学び、2回生の急性期成人看護援助論で急性期における成人看護の各概念である「生命の危機的状況にある対象」の身体的心理的社会的な看護問題とその介入について学ぶ。3回生前期に急性期成人看護学援助方法で、これまでの既習の知識を活用し、事例をもとに急性期にある患者の看護計画を立案し、それに沿ってロールプレイ演習を行いながら、具体的な看護介入方法を学び、後期の急性期看護学実習で実際手術を受ける患者を通して、生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案し、実行し、評価するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。4回生の統合実習、卒業演習では1～3回生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て、興味をもって取組、看護の専門性についても学んだ。
点検評価	1.効果が上がっている事項 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について、一貫した内容を教授することで、学生も急性期の特徴を理解しつつ看護過程を展開するということを学んでいる。 2.改善すべき事項 1) 1、2回生で「生命の危機的状況」ということが理解できなければ3回生以降の演習や実習での看護過程の展開は難しいと感じてしまい、やる気を出さなくなる可能性があるため、根気よく指導する必要がある。 2) 演習に必要な物品の準備が不十分であったので、事例に対応した物品の確保が必要である。
将来に向けた発展方策・課題	3回生の演習が重要であると考えるので、領域実習を終えた4回生や院生に参加してもらうことで、質問や課題の理由が学びやすくなるのではないかと考える。

領域名	慢性期成人看護学領域
担当教員	田中克子、カルデナス暁東、西尾ゆかり
担当科目	成人看護学概論、慢性期成人看護学援助論、慢性期成人看護学援助方法、慢性期成人看護学実習、成人保健看護学実習、総合実習、卒業演習
現状の説明	「成人看護学概論」は、後続する援助論、援助方法、実習に連動できるように健康レベルに対応した成人看護の概要を組み入れ講義、グループワークを行った。 「慢性期成人看護学援助論」は、病期の特徴と発症頻度を考慮して代表的な病気を例に挙げて、教科書を理解することを中心にして、病気の成因と看護援助の関係が理解できるように工夫した。「慢性期成人看護学援助方法」は、教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、講義、演習を行った。事例展開、技術演習に関して、考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて、対象者の健康レベルに合わせて援助方法を考え実施し評価できるように、創意工夫の視点を重視した。「実習」は代謝・内分泌系、内科系混合の4つの病棟で、原則として一人の受け持ち患者を担当し、様々な健康レベルのひととその家族に対する系統的な看護過程の展開を通じて、慢性期看護学の特徴を考察できることを重視した実習を展開した。「総合実習」は、実習テーマに応じて、大阪医科大学付属病院（代謝内分泌病棟、内科系混合病棟）、高槻赤十字病院（緩和ケア病棟）徳洲会沖永良部島病院で行った。「卒業演習」は、学生がテーマに応じて文献検索の論文を作成した。「成人保健看護学実習」は、地域に住む様々な健康レベルの人々とその家族に対する看護援助を学ぶことを目的に、外来部門やフィールドワークを中心に主体的に実習の展開を行った。
点検評価	1.効果が上がっている事項 独自に作成した演習資料に基づき、学習課題、講義、実技演習と体系化したことは学習を深める上で効果があったと考える。「成人保健看護学実習」では学生に主体的にテーマを選定し、フィールドワークを通じて地域における生活者の看護援助を具体的に考察することができた。 2.改善すべき事項 「援助論」「援助方法」は、テーマと授業時間配分が十分とは言えないので、学生の事前学習、事後学習は必須である。しかし、個別学生に対応する指導を実際に行うには別途人員確保の必要性を感じる。
将来に向けた発展方策・課題	毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、創意工夫できるようにする。

領域名	老年看護学
担当教員	小林貴子、横山浩誉、川上祐子
担当科目	老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助方法、老年保健看護学実習、老年看護学実習、卒業演習、総合実習
現状の説明	1. 老年看護学概論（2 回生前期）では老年期を健やかにその人らしく生きることを健康と生活の視点から支援する看護の機能と役割を学習課題とその成果と関連付け講義し、学生自身の高齢者観を表現する事によって知識の統合を行った。老年看護学援助論（2 回生後期）では、健康障がいと生活行動との関連で理解しアセスメント出来るよう基礎的な知識及び援助の根拠について論じた。老年看護学援助方法（3 回生前期）では高齢者擬似体験装具を装着しての生活援助技術の演習を行った。また事例を用いて看護展開方法を教授し、個別学習及びグループ発表により高齢者と目標を共有した看護実践について再考し、各アセスメントツールの特徴及び介護予防の視点を論じ演習により学びを深めた。 2. 領域実習（3 回生後期）では新カリキュラムとなり 2 科目 4 単位を実施した。老年保健看護学実習では通所事業所（計 6 か所）及び高槻市福祉事業団での介護予防事業に参加した。高槻市立郡家老人福祉センターを中心に市内（計 14 か所）で実施された一次、二次予防事業に教員の指導のもと参加した。また、老年看護学実習では 2 グループに分かれ介護老人保健施設において、受け持ち高齢者の看護に参加し生活援助技術を体験、看護過程を展開しグループ学習を含め高齢者理解を深めた。老年保健看護学実習での初めての介護予防事業での実習も含め教員及び指導者の協働指導により安全に実施し全員が 2 単位×2 科目を修得した。 3. 卒業演習は各教員が 2～3 名の学生を担当し、2 施設での総合実習を実施するとともに、学生は自己の関心を深め演習テーマを決定し、計画的に演習に取り組み卒業論文を作成した。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 1) 老年看護学概論、老年看護学援助論では、課題を提示しその成果を発表し共有する講義を通じて関連事項への学生の関心を喚起することができた。老年看護学援助方法の事例演習により老年看護学実習の看護展開がスムーズに展開した。理論と実践の統合で学びを共有する手法が定着した。 2) 卒業演習、総合実習は学生が主体的に参加出来るよう支援できた。 2. 改善すべき事項 1) (常勤)教員 1 名が未充足であった為に、教員の講義負担と共に実習 4 単位を同時進行する困難があった。非常勤教員及び実習補助員を得て学生への支障を最小にする努力をしたが正規教員の充足が課題である。
将来に向けた発展方策・課題	より多様な視点から高齢者理解を深めることを探求する事及び実習 2 科目 4 単位の同時実施には、臨地における高齢者様の安全確保と更なる学生の学習目標達成のための指導方法を探求すると共に、恒久的な実習指導教員の充実を図る。

領域名	小児看護学領域
担当教員	泊祐子、竹村淳子、山地亜希（6月末退職）、岩間恵
担当科目	小児看護学概論、小児看護学援助論、小児看護学援助方法、小児看護学実習、家族看護学、総合実習、卒業演習、実践と理論の統合
現状の説明	領域構成教員は教授1名、准教授1名、助教1名、非常勤教員1名であったが6月末に助教1名が退職した。 「小児看護学概論」では、講義と共に院内保育室での見学は継続して実施している。「小児看護学援助論」では、小児期特有の健康障害のある小児と家族の理解に重点を置いて教授した。「小児看護学援助方法」では、健康障害の種類と段階別の援助方法について教授し、「与薬」の演習時に実習指導者の参加を企画した。 「家族看護学」では、学生の社会経験の少なさを考慮し、理論を用いて家族の理解ができるよう教授した。「小児看護学実習」では、小児病棟・外来および小中学校での実習を行った。実習指導者が病棟のオリエンテーションに使うツールの作成に協力した。「実践と理論の統合」では、小児期特有の疾患について事前学習を課し、演習では援助計画学習とロールプレイングを実施した。「総合実習」「卒業演習」では、6人の学生を受け入れ、医療施設・市町村療育教室・知的障害児者支援センター・高槻市保育所等、あらゆる健康段階にある小児と家族への支援と地域連携・協働の理解が深まるよう構成し、実習後は、指導者を招き、学びを共有する発表会を実施した。「卒業演習」は、学生の関心に基づきテーマを設定した。調査を行う学生は倫理審査申請を行い、質的分析手法を用いた。
点検評価	1.効果が上がっている事項 「小児看護学援助方法」での演習に実習指導者の参加を企画した結果、学生が健康障害のある小児への対応についてより実践的な助言が得られたことやリアリティを感じられたと思われる。また病棟で使用するオリエンテーションツール作成に協力したことは、学生の理解の特徴を伝える機会となった。 2.改善すべき事項 小児への援助技術に関する項目の中で、「身体計測」を2年次に実施していたが、実習前の実施の方が効果的だと考える。そのため、3年次にバイタルサイン等の基本的な援助技術を組み合わせて教授していく。
将来に向けた発展方策・課題	「小児看護学実習」では、実習指導者との連携強化による限られた実習期間を効果的に使えるように病棟のイメージづくり等準備の充実を図る。 次年度はカリキュラム改正による保健師選択制導入後の初めての4年生となり、4年次実習の時期が11月まで学生個々に多様になるので、「卒業演習」の展開の中断が起こったり、集団指導が困難になることもあるので、グループ討論の時期など教育効果を上げる工夫が課題と考える。

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子、佐々木くみ子（12月末退職）、西頭知子、丹治恵実
担当科目	セクシュアリティと看護、リプロダクションと看護、母性看護学概論、母性看護学援助論、母性看護学援助方法、母性看護学実習、助産学概論、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産管理、助産学実習、看護実践と理論の統合、卒業演習、総合実習
現状の説明	1. 講義は、学生のこれまでの既履修科目をふまえ、予習課題、授業、復習により、知識習得できるよう展開した。さらに学生の興味・関心、自ら学び考える、参加型を重視した講義を行った。 2. 演習科目では、実践的演習をめざし、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。 3. 講義・演習科目の評価方法としてルーブリック評価を導入し、評価の「見える化」を行った。 4. 実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・附属病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。
点検評価	1. 効果が上がっている事項 学生による授業評価科目では、概ね良い評価が得られていた。予習課題、授業、復習による教育は、学生の専門知識・技術の習得に加え、学士力育成にも寄与できたと考える。また、前年度レポート未提出者がみられたため、今年度は提出を期末試験受験の必要条件とした。効果がみられレポート状況は改善できた。平成25年度10件見られた実習中の事故報告については、実習オリエンテーションで具体的な事例を紹介し、学生の認識を高めたことなどから、前年度より減少した。 2. 改善すべき事項 再試験者がみられた科目があった。次年度も、小テストや練習問題、事前学習課題で知識習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。ルーブリック評価を導入したが、高い評価が点数に反映されにくいなどの課題も明らかとなった。評価項目を工夫し、課題によっては従来の評価方法が適切であるため、柔軟に使用していく。
将来に向けた発展方策・課題	1. 引き続き、母性看護学・助産学の科目間の連携を強め、効率的・効果的な授業を展開する。 2. 視覚支援教材などの積極的活用、教育理論をベースとした教授方法の工夫などにより、引き続き看護実践力の育成をめざす。 3. 新カリキュラムに伴い、助産学実習履修学生がこれまでより1名増加の6名の養成となる。過密スケジュールを調整しながら、確実な知識・技術取得に加え、生涯学習力の基盤となるような能力を育成できるよう教育方法を検討する。

領域名	精神看護学領域
担当教員	荒木孝治、元村直靖、瓜崎貴雄、古木早織
担当科目	人間関係論、精神看護学概論、精神看護学援助論、精神看護学援助方法、精神看護学実習、看護実践と理論の統合、総合実習、卒業演習、心理学、大阪を学ぶ、健康科学概論、医療倫理学
現状の説明	(荒木、瓜崎、古木)：精神看護学概論では精神看護の基本概念を、精神看護学援助論では精神疾患とその看護について基本的知識を、精神看護学援助方法では精神疾患患者への看護方法を教授した。精神看護学実習では、デイケア実習も配置しつつ、主には本学附属病院精神神経科病棟にて、看護過程を展開し、基礎的実践能力を養った。総合実習では、本学附属病院精神神経科病棟、城北きむら医院デイケア部門、大阪府立精神医療センター慢性期病棟にて、マネジメントや包括医療の視座を盛り込んで実習を展開した。卒業演習では、学生の関心に沿って、論文指導を行った。主題は「精神疾患患者の家族の思いに対する入院前、入院中、退院後の支援について」「長期入院精神疾患患者の退院に際して家族が抱える困難と家族に対する看護に関する文献検討」「うつ病で自殺企図のある患者とその家族に対する看護に関する文献検討」「日本における精神障がい（者）に対する偏見要因とオーストラリア施策を活用した解決策の検討」であった。 (元村)：心理学（1年生担当）では、主に正常な人間の心理の理解を深めるとともに、認知心理学、人間性心理学、臨床心理学など多彩な心理学の領域を広く教授した。卒業演習（4年生担当）では、「看護職の夜勤勤務とメンタルヘルス対策における運動の効果の検討」「日本の自殺予防について」「スピーチ不安に対する認知行動療法の効果について」であった。
点検評価	1.効果が上がっている事項 (荒木、瓜崎、古木)：実習では、学生が受け持ち事例をより深く検討できるように、面談の機会を増やし、学生の理解度等を把握した上で指導を行った。その結果、学生が患者と関わる中で、精神的健康においても、環境が整っていけば、患者が自己回復力を発揮できることに気づけるようになった。 (元村)：本年度は、数名の学生が大阪医科大学附属病院の外来で研鑽を積んだ。 2.改善すべき事項 (荒木、瓜崎、古木)：精神看護学実習において、学生が患者の情報が記された用紙の返却を忘れ、実習終了後1時間して病棟に用紙を返却に行った、というケースがあった。個人情報管理の徹底について、対策を強化する必要がある。 (元村)：学生さんの患者さんとの接し方について、なお対応すべきことがある。
将来に向けた発展方策・課題	(荒木、瓜崎、古木)：精神医療の今日的課題の一つは、精神障がい者の地域での生活の促進である。学生がその課題の重要性に気づき、その方策について少しでも検討することが可能となるように、授業の工夫が必要である。 (元村)：精神疾患患者が、さまざまな場所で共生していることを理解する。

領域名	在宅看護学領域
担当教員	真継和子、檜原理恵
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、総合実習、卒業演習
現状の説明	教員組織は准教授1名、助教1名であり、非常勤実習補助員2名（1名ずつ期間雇用）を起用した。 「在宅看護学概論」では在宅看護のイメージ化を図るため多様な映像を用いた。また、知識の定着を図るため毎回課題提示と確認テストを実施した。「在宅看護学援助論」では、在宅特有の援助方法の実際についてDVDを活用しながら教授した。「在宅看護学援助方法」では、健康障害の種類と健康段階に応じた援助方法について具体事例を用いロールプレイングを取り入れ教授した。「在宅看護学実習」では、附属病院広域医療連携センターと訪問看護ステーションでの実習を行った。学生の思考プロセス定着のために記録用紙の改善を行った。また、訪問事例数を1日2～3件と制限、さらに学内日を設けリフレクションによる実践の意味づけの強化、疾患や障害－生活－社会資源の関連について理解を強化した。さらに、スタッフと教員との連携のもと、学生がスタッフとの関係を自ら密にすることができるよう環境を整え、看護ケアに積極的に参加できるように設定した。「看護実践と理論の統合」では、これまでの施設ごとの学びの共有から実習グループを解体、再構成し、テーマにもとづいた学びの確認と共有を図った。 「総合実習」「卒業演習」は5人の学生が選択した。医療施設の退院支援調整部門、訪問看護ステーションで、それぞれの問題意識にもとづいた実習を展開した。
点検評価	1.効果が上がっている事項 「在宅看護学概論」での課題提示と確認テストの実施は確実に学生の知識定着につながり、最終評価も昨年度を上回っていた。「在宅看護学実習」「看護実践と理論の統合」で実施したリフレクションによる実践の意味づけを強化した結果、学生の学びが単に抽象論で終始することなく、具体的事例をとおして具体－抽象とつなげて理解でき学びとなっていた。 2.改善すべき事項 「在宅看護学援助方法」において具体事例を用いロールプレイングを試みたが、アセスメントが不十分なままでの計画、ロールプレイングとなっていた。看護のプロセスにそって段階的に学べる工夫が必要である。また、実習等で看護ケアに参加する機会が多いものの、教員のマンパワーの問題もあり学内での技術演習が不十分であることから、非常勤雇用も念頭に置きながら演習を強化する。
将来に向けた発展方策・課題	からだの動きと連動させ根拠のある看護技術ケアの習得ができるよう、映像や技術演習ツールを作成し授業展開に活かしていく。実習は学びの宝庫である。指導者やスタッフとの問題共有や共同学習をとおして学習環境を質的に整えていく。

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子、土手友太郎、草野恵美子、月野木ルミ
担当科目	くらしと社会・環境、保健福祉医療概論、統計学、公衆衛生学・疫学、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学活動方法、公衆衛生看護学管理論、ヘルスプロモーション、公衆衛生看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、総合実習
現状の説明	カリキュラムの移行に伴い、旧カリキュラムの４年生対象の地域看護学実習Ⅱと新カリキュラム３年生対象の公衆衛生看護学実習Ⅰを５月と９月に行った。今年度初めて保健師選択制の３年生の前期終了時に選抜を行い、５１名を選抜した。公衆衛生看護学実習が４単位と増加していることや遠隔地実習であることから、学生に実習配置等の希望調査を行い、６月～１２月までの配置を行った。公衆衛生看護学活動方法と公衆衛生看護学管理論は、選択科目になったがほとんどの学生が選択している。
点検評価	1.効果が上がっている事項 公衆衛生看護学概論や公衆衛生活動論では、保健師などの外部講師を招くことや、DVD を利用することで、学生の保健師活動の理解を強化している。選択科目になった公衆衛生看護学活動方法と公衆衛生看護学管理論では、PDCA サイクルを取り入れて、健康教育や地域診断について演習を行うことで保健師の活動方法の理解を深めている。 2.改善すべき事項 公衆衛生看護学活動方法、公衆衛生看護学管理論の演習は、グループ作業が中心となる。保健師を選択しない学生も受講するため、グループ構成や興味をもって取り組めるような授業の工夫が必要である。
将来に向けた発展方策・課題	公衆衛生看護学実習単位の増加に伴い、大阪府下の実習が１５名と制限がされた。そのため、多くの学生が、住民と行政の保健師や病院との関わりが密接な山間部や諸島において宿泊実習となり、他機関との連携や包括的な地域保健活動の実際を体験できると期待している。また、実習準備として実習前に、公衆衛生看護学演習１単位を行うことで、実習の効果を高めることができると考えている。遠隔地で宿泊を伴う実習となり、学生や教員の負担は増加すると考えられるため、実習が円滑に進むように臨地実習先の指導者や実習担当教員の連携を密に行うことや健康管理に留意する必要がある。

領域名	看護実践発展領域
担当教員	林優子、瀧井道明、鈴木久美、西園貞子、畑中あかね
担当科目	健康科学概論、フィジカルエグザミネーション、病気の診断、病気の治療、医療英語、看護研究法、看護教育、卒業演習、総合実習
現状の説明	「健康科学概論」は、必要な基本的知識として、健康及び健康を守り健康を作るための生き方について、ライフスタイル、生き方の選択、健康リスク、社会と環境の4つの視点から学習を進め、グループ学習を主とした授業を展開した。「フィジカルエグザミネーション」は、診察総論と各領域での診察方法各論の講義と、1.脈拍・血圧測定、2.モデル人形フィジコを用いた心音聴取、3.モデル人形ラングを用いた呼吸音聴取、4.神経・反射の診察の演習を行った。「病気の診断」、「病気の治療」は、1年を通じて各領域の「診断と治療」の講義をほぼ全範囲を網羅して行った。「医療英語」は、“医療の世界—基本情報と表現演習”というテキストを使用し、リスニング後に学生の音読を促した講義を行った。「看護研究法」では、研究の目的と意義、研究倫理、文献検索、研究計画書について演習を取り入れた講義を行った。「看護教育」は、看護教育の変遷と課題について、講義・グループ学習・個人学習の活用で授業を展開した。また、課題発見能力、主体的学習能力の育成方法について、IBL(Inquiry Based-Learning)を活用した授業展開を行った。「総合実習」は、9名の学生を受け入れ、1.継続看護を中心とした実習、2.看護の専門性とキャリア開発を展開するための実習を行い、まとめとして統合カンファレンスを実施し、学びや体験を共有した。「卒業演習」は、9名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ってテーマを設定し、看護師を対象にした質問紙調査や面接調査、がん患者を対象にした面接調査、文献レビューがみられた。
点検評価	1.効果が上がっている事項 「健康科学概論」でのグループ学習は主体的な学習を推進できた。「フィジカルエグザミネーション」の実技試験前には、学生が自主的に実技に備えて準備する取り組みがみられた。「病気の診断」、「病気の治療」、「医療英語」は医学的な内容であるが、筆記試験の成績は良好であった。「看護教育」でのIBLを活用した授業では、学生が役割をもってグループ学習を活性し、学習課題の発見と課題解決に向けた自己学習の促進に繋がっていた。「総合実習」及び「卒業演習」は、学生の関心を尊重し、学生自らが目標を立て、主体的に取り組んでいた。 2.改善すべき事項 「病気の診断」、「病気の治療」の講義用プリントは膨大な内容を圧縮したものであり、もう少し項目やポイントを絞ったものが望まれる。「看護研究法」は、卒業研究の取り組みにどれだけ反映されたかを評価することが必要だと思われる。
将来に向けた発展方策・課題	講義科目は、オムニバスでの展開が多いため、担当教員との連携を密にし、学生が学習目標を達成できるようにすることが望まれる。また、時間内で展開する学習が、理解・活用につながるように、他の授業科目と連携する必要がある。統合科目は、学生の主体性を尊重し、自ら学ぶ姿勢を養えるような指導が課題である。

V. 研究活動

1. 研究実績

1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

平成 26 年度 看護学部 of 競争的研究資金等の採択状況

研究活動			新規採択件数	継続件数	合計金額(円)
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	基盤研究（B）	代表	0	0	0
		分担	3	0	1,250,000
	基盤研究（C）	代表	3	8	9,000,000
		分担	4	0	240,000
	挑戦的萌芽研究	代表	0	2	1,800,000
		分担	0	2	360,000
	若手研究（B）	代表	0	2	1,100,000
		分担	0	0	0
	研究活動スタート支援	代表	0	1	1,000,000
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0	0
分担		1	0	500,000	
省庁・独立行政法人等の競争的資金 （科研費を除く）			1	0	40,000,000
財団等による研究助成			3	0	1,947,058
企業等による共同研究、研究助成			2	0	480,000
総 合 計					57,677,058

平成 26 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）交付決定一覧

（研究代表者）

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付決定額(円)
基盤研究(C)	道重 文子	口腔内の生体防御能の促進に向けた看護口腔ケアモデルの開発	500,000
基盤研究(C)	竹村 淳子	重度肢体不自由児の成人移行期における父親役割の明確化と看護支援プログラム開発	500,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	アトピー性皮膚炎女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップに焦点化した看護	500,000
基盤研究(C)	佐々木 綾子	子宮頸がん好発年齢母親小集団の検診行動を促す看護職指導者養成プログラムの効果検証	600,000
基盤研究(C)	西薊 貞子	IBL 方式を用いた看護アセスメント能力向上教育プログラムの開発	1,500,000
基盤研究(C)	松尾 淳子	寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	600,000
基盤研究(C)	田中 克子	糖尿病女性の QOL 向上にむけて妊娠・出産・育児にチャレンジできる看護援助の考案	500,000
基盤研究(C)	西頭 知子	セクシュアリティの健やかな発達を促す教育プログラムの開発	500,000
基盤研究(C)	林 優子	臓器移植看護における看護師の倫理的実践の変化－アクションリサーチを用いて－	800,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	高齢者世代が参画する地域のつながりを重視した効果的な子育て支援プログラムの開発	900,000
基盤研究(C)	泊 祐子	特別支援学校において医療的ケアを担う看護師の専門性を高める支援プログラムの構築	2,100,000
挑戦的萌芽研究	赤澤 千春	生体肝臓移植を受けたレシピエントの退院後の自己管理支援プログラムソフトの開発	300,000
挑戦的萌芽研究	佐々木 くみ子	腔内細菌叢に着目した早産予防のための妊婦の好ましい生活習慣の検討	1,500,000
若手研究(B)	川北 敬美	子育て期の看護師における雇用システムの構築	600,000
若手研究(B)	原 明子	静脈血採血における最適な穿刺角度に関する研究	500,000
研究活動スタート支援	丹治 恵実	乳児のオムツ皮膚炎予防と親への支援に関する基礎的研究	1,000,000

（研究分担者）

研究種目	氏 名	研 究 課 題 名	交付決定額(円)
基盤研究(B)	鈴木 久美	女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支える看護教育プログラムの開発	750,000
基盤研究(B)	草野 恵美子	活動の必要性和成果を住民と意志決定者に「見せる公衆衛生看護技術」の構築	100,000
基盤研究(B)	小林 道太郎	ケアの現象学の具体的展開と組織化	400,000
基盤研究(C)	道重 文子	新人看護師の臨床判断力をつける学習支援システム開発の評価	50,000
基盤研究(C)	カルデナス 暁東	在日中国人女性留学生の性の健康維持・増進をもたらす看護支援に関する研究	100,000
基盤研究(C)	真継 和子	臨床看護師の批判的リフレクシオンスキルを強化する I C T 教育プログラムの開発と評価	60,000
基盤研究(C)	草野 恵美子	地区組織活動を強化するコミュニティ・エンパワメントモデルの開発	30,000
挑戦的萌芽研究	赤澤 千春	新卒看護師のストレス対処能力 (SOC) を活性化するストレス緩和プログラムの開発	80,000
挑戦的萌芽研究	赤澤 千春	周術期乳がん患者の体重増減に関する続発性リンパ浮腫予防プログラムの開発	280,000

平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	補助金額(円)
成育疾患克服等次世代 育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総 合研究事業)	草野 恵美子	乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職 種連携による母子保健指導のあり方に関する研究	500,000

平成 26 年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
関西イノベーション 国際戦略総合特区「医工 連携事業化推進事業」実 証事業	松尾 淳子	眼で診る聴診器～携帯型超音波診断装置の 開発	40,000,000

平成 26 年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
日中医学協会	カルデナス 暁東	日中における 2 型糖尿病患者の治療効果と QOL を高める『ファミリーパートナーシッ プ』看護援助システムの構築	800,000
政策医療振興財団	月野木 ルミ	東日本大震災後の患者数変化：2008 年と 2011 年患者調査による解析	415,758
政策医療振興財団	赤澤 千春	下肢リンパ浮腫患者のセルフケアの継続を 支援するための評価方法の検討 ー簡易体組成計がリンパ浮腫の改善および 自己効力感に及ぼす影響ー	731,300

平成 26 年度企業等による共同研究、研究助成一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
国立大学法人熊本大学 大学院自然科学研究科	松尾 淳子	大腸内容物の定量評価を目的とした超音波 画像解析に関する研究	0
株式会社 山忠	松尾 淳子	機能性靴下の素材・構造による保温・保湿 効果の科学的検証	480,000

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

研究活動/【著書】

小林貴子	<u>小林貴子</u> (2015) : 手指の震えのフィジカルアセスメントとは, 森田孝子編, 救急・急変に役立つフィジカルアセスメント, 163-165, 総合医学社, 東京. <u>小林貴子</u> (2015) : 高齢期看護における行動のフィジカルアセスメントとは, 森田孝子編, 救急・急変に役立つフィジカルアセスメント, 182-185, 総合医学社, 東京.
佐々木綾子	横尾京子, 常盤洋子, 岡永真由美, 井村真澄, <u>佐々木綾子</u>他 (2014) : 助産師基礎教育新テキスト 第6巻, 横尾京子(編), 99-120, 日本看護協会出版会. <u>佐々木綾子</u> (2014) : 分娩時の「外陰部消毒はいらない」, 「新生児の眼の清拭時は「目尻→目頭」の方向で行う, 川西千恵美編, 今はこうする看護ケア, 63, 102, 照林社.
鈴木久美	林直子, <u>鈴木久美</u>, 酒井郁子, 梅田恵編集 (2014) : 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護学概論 社会に生き世代をつなぐ成人の健康を支える 改訂第2版, 65-76, 83-92, 122-127, 136-142, 230-240, 南江堂, 東京. <u>鈴木久美</u>, 野澤明子, 森一恵編集 (2015) : 看護学テキスト NiCE 成人看護学 慢性期看護 病気とともに生きることを支える 改訂第2版, 1-36, 64-69, 南江堂, 東京.
道重文子	原明子, <u>道重文子</u> (2015) : 身体をきれいにすること, 角濱春美 梶谷佳子編, 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 (第2版), 324-362, メヂカルフレンド社, 東京. 川北敬美, <u>道重文子</u> (2015) : 与薬・採血, 角濱春美 梶谷佳子編, 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 (第2版), 363-397, メヂカルフレンド社, 東京.
元村直靖	川端康雄, <u>元村直靖</u> (2014) : 事故による子どものトラウマ 子どもの PTSD - 診断と治療 - I 章)子どもの PTSD とは B)子どもの PTSD 株式会社診断と治療社 46-53. John A. Frank, Frank W. Putman, and William W. Harris (翻訳 : <u>元村直靖</u>) (2014) : 第13章子どものトラウマ的ストレスの頻度とその衝撃 PTSD ハンドブック - 科学と実践第II部 科学的基盤と理論的展望 金剛出版 223-242.
草野恵美子	<u>草野恵美子</u> (2014) : 第1章ヘルスプロモーション (地域の健康づくり) 1) 母子保健・子育て支援, 岡本玲子他編, 公衆衛生看護学テキスト第3巻 公衆衛生看護活動 I (第1版), 1-15, 医歯薬出版, 東京.
松尾淳子	<u>松尾淳子</u> (2014) : 褥瘡リスクの高い患者のシーツは「ピンと張らない」, 川西千恵美編, 今はこうする! 看護ケア, 45, 照林社, 東京. <u>松尾淳子</u>, 山村憲一郎 (2014) : 解剖生理・病態生理から読む画像検査, 5-10, Clinical Study, メヂカルフレンド社, 東京.
真継和子	<u>真継和子</u> (2015) : 第8章 在宅における医療管理を必要とする人と看護, 河野由美(編), 要点がわかる在宅看護論, 174-190, ピラールプレス, 東京.
畑中あかね	<u>畑中あかね</u> (2014) : 第4章インスリン療法の継続のための指導・支援方法, 一般財団法人日本糖尿病教育・看護学会編, 糖尿病看護ベストプラクティス イン

	スリン療法 (p90-115), 東京: 日本看護協会出版会 <u>畑中あかね</u> (2014): 第IV章療養指導の基本 (患者教育), 日本糖尿病療養指導士認定機構編, 糖尿病療養指導ガイドブック 2014, p102-124, 東京: 株式会社メディカルレビュー社
川北敬美	<u>川北敬美</u>, 道重文子 (2015): 看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術, 364-393, メヂカルフレンド社. <u>川北敬美</u> (2014): メディカコンクール 2015 年受験者対象必修問題トレーニングテスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>川北敬美</u> (2014): メディカコンクール 2015 年受験者対象第 1 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>川北敬美</u> (2014): メディカコンクール 2015 年受験者対象第 2 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>川北敬美</u> (2014): メディカコンクール 2015 年受験者対象第 3 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>川北敬美</u> (2014): メディカコンクール 2015 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版.
西尾ゆかり	メディカコンクール 2015 年受験者対象第 3 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 成人看護学, メディカ出版.
原 明子	<u>原明子</u>, 道重文子 (2015): 身体をきれいにすること, 角濱春美 梶谷佳子編, 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 (第 2 版), 324-362, メヂカルフレンド社, 東京. <u>原明子</u> (2013): メディカコンクール 2014 年受験者対象必修問題トレーニングテスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>原明子</u> (2013): メディカコンクール 2014 年受験者対象第 1 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>原明子</u> (2013): メディカコンクール 2014 年受験者対象第 2 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>原明子</u> (2013): メディカコンクール 2014 年受験者対象第 3 回看護師国家試験対策テスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版. <u>原明子</u> (2013): メディカコンクール 2014 年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト(解答・解説), 基礎看護学, メディカ出版.

研究活動/【論文】

赤澤千春	C. Arakawa, S. Teraguchi, <u>C. Akazawa</u>, T. Nishizono, M. Yamamoto(2014) : Self-Management of Infection Control Behavior of Adult Recipients of Living-Donor Liver Transplantation Within 5 Years After, Transplantation Proceedings, 46, 838-840. N. Tanimizu, A. Shuda, T. Imanishi, <u>C. Akazawa</u>, Y. Hayashi, K. Hagiwara (2014) : The Existence of Experience and Frequency and Severity of Related Concerns of Ethical issues in Nursing Practice Encountered in Organ Transplantation, Transplantation Proceedings, 46, 1029-1031. 駒田安紀, 近藤恵, <u>赤澤千春</u>, 中嶋文子, カール・ベッカー(2014) : 新人看護師のバーンアウトとソーシャルサポート源, 看護管理, 24(4), 382-386. 熊野光紗, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子(2014) : 肝移植を受けた成人レシピエントの退院後の生活における自己管理行動の現状, 日本移植・再生医療看護学会誌, 9(2), 3-15.
荒木孝治	瓜崎貴雄, <u>荒木孝治</u> (2015) : 日本における救急医療に従事する看護師のメンタルヘルスに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 87-96.
小林貴子	<u>小林貴子</u>, 仁科聖子, 松尾淳子, 市川佳映 (2015) : 介護保険施設における高齢者ケアの看護・介護の協働・連携に関わる看護職の実践, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第5巻, 65-75 北村有香, 横山浩誉, <u>小林貴子</u> (2015) : A市における「認知症を理解し地域で支える会」の取り組むに関する研究—認知症高齢者の家族と地域住民, 医療・福祉職が会に参加する意味—, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第5巻, 54-64
佐々木綾子	<u>佐々木綾子</u>, 波崎由美子 (2015) : 産後1か月の褥婦の入浴開始時期に関する実態(1), 第45回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会論文集, 46-48. <u>佐々木綾子</u>, 波崎由美子, 岸上きみゑ, 鈴木秀文, 山本宝 (2015) : 産後1か月の褥婦の入浴開始時期に関する実態(2) 分娩後早期入浴の説明を受けた褥婦の行動と認識, 第45回日本看護学会—ヘルスプロモーション—学術集会論文集, 50-53. 吉川真弓, 飯田直美, 笠松泰江, <u>佐々木綾子</u> (2015) : 回旋異常にも関わらず経膈分娩に至った初産婦6事例の検討, 日本母性看護学会誌, 34-39. <u>佐々木綾子</u> (2015) : 「マザリーズと臨床の接点」, ベビーサイエンスコメント論文, 36-37.
鈴木久美	<u>鈴木久美</u>, 片岡優実, 松本麻里, 他(2014) : ペグインターフェロン・リバビリン併用療法を受けているC型肝炎患者のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの開発と評価, 兵庫医療大学紀要, 2(1), 13-26.
瀧井道明	<u>Takii M</u>, Masuda D, Imoto A, et al (2014) : Evaluation of Fatty Acid Absorption in the Small Intestine Using ¹³C Palmitic Acid Breath Test -Comparison Between the Presence and Absence of Bile Acids in the Small Intestine-. Bulletin of Osaka Medical College 60 (1), 1-8. <u>瀧井道明</u>, 増田大介, 井元 章, 他 (2014) : 胆管閉塞状態における¹³C呼気試験

	による脂肪酸吸収能評価と胆管ステント留置による改善効果. 安定同位体と生体ガス Vol.6, 10-16. <u>瀧井道明</u>, 増田大介, 小倉 健, 他 (2014) : パンクレリパーゼ製剤の投与により浮腫の改善がみられた非代償期慢性膵炎の 1 症例. 新薬と臨床 63 (1), 129-134. Imoto A, Ooi Y, <u>Takii M</u>, et al (2014) : Liver abscess cause CTX-M-55-type extended-spectrumβ-lactamase (ESBL) -producing Salmonella enteritis. Int Med 53 (15), 1699-1703. Ogura T, Masuda D, <u>Takii M</u>, et al (2014) : Duodenal stent placement for duodenal obstruction caused by pancreatic cancer associated with annular pancreas. Gastrointest Endosc 83(3), 530-531.
田中克子	カルデナス暁東, 大塚俊宏, 森脇真一, 榎野茂樹, 西尾ゆかり, <u>田中克子</u>, 河嶋公美子 (2014) : ボディイメージの再形成に向けたメイクセラピーを取り入れた看護ケアを実施した皮膚筋炎女性患者の 1 例, 大阪医科大学医学雑誌, 73 (3), 25-29. <u>田中克子</u>, カルデナス暁東, 西尾ゆかり (2015) : 中国山西省人民病院の管轄地域「社区看護」の視察から見る継続看護の現状, 第 5 巻, 97-101.
土手友太郎	<u>Dote T</u>, Tanimoto Y, Nakayama S et al. (2014): Effects of certain lifestyles modifications on mandatory routine health checkups changes of private university employees over three successive years, Bulletin of the Osaka Medical College 59(2), 75-83. <u>Dote T</u>, Tamimoto Y, Nakayama S et al. (2014): Review of Priority for Health Counseling after Mandatory Routine Health Checkups Using Application, Stage of Change, Presence of Metabolic Syndrome, and Visceral Adiposity, Osaka Medical College Nursing Research 4, 32-40. <u>Dote T</u>, Tamimoto Y, Nakayama S et al. (2014): Four-year follow-up of specific health checkups and effect of specific health guidance for untreated employees. Bulletin of the Osaka Medical College 60(1), 19-25. <u>Dote T</u>, Nakayama S, Hayashi E et al. (2014): Three consecutive years of research on the stratification of specific health checkups, abnormal criteria values and healthy lifestyles among stage of changes. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology 62, 328-335. <u>土手友太郎</u>, 谷本芳美, 中山紳, 他 (2014): 特健後の階層・腹部肥満状況および健康状態・保健指導・行動変容への主観的要因の検討, 成人病と生活習慣病 44(5), 601.
泊祐子	竹村淳子, 津島ひろ江, <u>泊祐子</u> (2015) : 二次障害の治療選択に直面した重症心身障害児の母親が認識したレジリエンスに働きかける看護支援, 大阪医科大学看護学研究雑誌, 第 5 巻, 28-35. 古株ひろみ, <u>泊祐子</u> (2014) : 特別支援学校実習で働く看護師が看護のアイデンティティを回復するプロセス, 小児保健研究, 73 巻 2 号, 284-292.

林 優子	N.Tanimizu, A.Shuda, T.Imanishi, C.Akazawa, <u>Y.Hayashi</u> and K.Hagiwara (2014): The Existence of Experience and Frequency and Severity of Related Concern of Ethical Issues in Nursing Practice Encountered in Organ Transplantation. Transplantation Proceedings,46,1029-1031 原明子, <u>林優子</u> (2015): クリティカルケア看護領域における看護師の臨床判断と影響要因との関連. 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 15-27. 山内栄子, 西薊貞子, <u>林優子</u> (2015): 看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周手術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討. 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 76-86.
道重文子	<u>道重文子</u>, 原 明子, 川北敬美, 仲前美由紀 (2015): 長期療養者の口腔内環境の変化と細菌数からみた口腔ケアの課題, 大阪医科大看護研究雑誌, 5, 47-53.
元村直靖	宮田郁, 浅島有紀, 久保田祐子, 木下真也, 川野涼, 川端康雄, <u>元村直靖</u>, 米田博: 自死遺族へのグリーフケアをチームで実践した 1 例, 総合病院精神医学 25,4,391-397 川端康雄, 若林暁子, <u>元村直靖</u>, 米田博 (2014): 震災支援時の心理学的対応について, 日本保健医療行動科学会雑誌, 29,1,31-39.
吉田久美子	土手友太郎, 谷本芳美, 中山紳, 林江美, 黒川博史, 横山浩誉, 瀧井道明, <u>吉田久美子</u>, 草野恵美子, 月野木ルミ (2014): 保健指導の希望, 行動変容ステージ, メタボリックシンドロームおよび内蔵脂肪の状況による特定保健指導の優先順位の検討, 大阪医科大学 看護学研究雑誌 4,32-40. 黒川博史, 中野美智子, 石原多恵, 小林喜美代, 横山浩誉, <u>吉田久美子</u> (2014): 非肥満の若年男性集団における運動習慣の関心と運動習慣の促進要因・阻害要因との関連、大阪医科大学 看護学研究雑誌 4,41-49.
草野恵美子	Nagata S, Teramoto C, Okamoto R, Koide K, Nishida M, Suzuki R, Nomura M, Tada T, Kishi E, Sakai Y, Jojima N, <u>Kusano E</u>, Iwamoto S, Saito M, Murashima S(2014): The tsunami's impact on mortality in a town severely damaged by the 2011 Great East Japan Earthquake for Untreated Employees, Disasters, 38(S2), S111-S122. Dote T, Tanimoto Y, Nakayama S, Tamaki J, Takii M, Yoshida K, <u>Kusano E</u>, Tsukinoki R, Yokoyama H(2014): Four-Year Follow-up of Specific Health Checkups and Effect of Specific Health Guidance for Untreated Employees, Bulletin of the Osaka Medical College, 60(1), 19-25.
竹村淳子	<u>竹村淳子</u>, 津島ひろ江, 泊祐子(2015): 二次障害の治療選択に直面した重症心身障害児の母親が認識したレジリエンスに働きかける看護支援, 大阪医科大学看護学研究雑誌, 第 5 巻, 28-35.
松尾淳子	Iuchi T, Nakajima Y, Fukuda M, <u>Matsuo J</u>, Okamoto H, Sanada H, Sugama J (2014): Using an extreme bony prominence anatomical model to examine the influence of bed sheet materials and bed making methods on the distribution of pressure on the support surface. Journal of Tissue Viability, 23(2), 60-68. 須釜淳子, 西澤友江, <u>松尾淳子</u> (2014): 高齢者・障害者のための寝具の周辺機

	能, バイオメカニズム学会誌, 37 (3), 159-163. Matsumoto M, Sugama J, Okuwa M, Dai M, <u>Matsuo J</u>, Sanada, S (2014) : Non-invasive monitoring of core body temperature rhythms over 72h in 10 bedridden elderly patients with disorders of consciousness in a Japanese hospital: A pilot study. Archives of Gerontology and Geriatrics, 57(3), 428-432. Matsumoto M, Sugama J, Nemoto T, Kurita T, <u>Matsuo J</u>, Dai M, Ueta M, Okuwa M, Nakatani T, Tabata K, Sanada H (2014) : The Nature of Sleep in 10 Bedridden Elderly Patients With Disorders of Consciousness in a Japanese Hospital. Biological Research for Nursing, 17(1), 23-30. Matsumoto M, <u>Matsuo J</u>, Dai M, Nishizawa T, Matsui K, Ichikawa Y, Okuwa M, Sugama J, Sanada H (2014) : Influence of differences in washing methods on skin texture. International Journal of Cosmetic Science. 36(2).175-81. 戴中幸一, <u>松尾淳子</u>, 原明子, 仲上豪二朗, 須釜淳子, 真田弘美 (2014) : 超音波画像による大腸内に貯留した便とガスの比較検討, 超音波検査技術, 38(6), 605-613.
真継和子	小西由起子, 浦上友江, 櫻井明子, 七堂美香, 富森菜穂美, 松本美知子, 船橋眞喜枝, <u>真継和子</u> (2015) : 大阪府における看護職の継続教育に関する学習ニーズの実態調査(第1法), 第45回日本看護学会論文集 看護教育, 198-201, 公益社団法人日本看護協会.
山内栄子	<u>山内栄子</u>, 西薊貞子, 林優子 (2015) : 看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周手術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第5巻, 掲載予定 松本悠希, <u>山内栄子</u>, 黒田寿美江, 2型糖尿病患者の食事療法継続に対する感情的負担を軽減する因子, 日本糖尿病教育・看護学会誌, 19 (2), 掲載予定
瓜崎貴雄	<u>瓜崎貴雄</u>, 荒木孝治 (2015) : 日本における救急医療に従事する看護師のメンタルヘルスに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 87-96.
カルデナス暁東	<u>カルデナス暁東</u>, 大塚俊宏, 森脇真一, 槇野茂樹, 西尾ゆかり, 田中克子, 河嶋公美子 (2014) : ボディイメージの再形成に向けたメイクセラピーを取り入れた看護ケアを実施した皮膚筋炎女性患者の1例, 大阪医科大学医学雑誌, 73 (3), 25-29. 田中克子, <u>カルデナス暁東</u>, 西尾ゆかり (2015) : 中国山西省人民病院の管轄地域「社区看護」の視察から見る継続看護の現状, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第5巻, 97-101.
小林道太郎	<u>小林道太郎</u> (2014) : ケア倫理は看護倫理にどう貢献しうるのか ケアの諸局面の倫理的要素から, 日本看護倫理学会誌, 6(1), 20-29.
月野木ルミ	<u>月野木ルミ</u>, 村上義孝 (2014) : 国民生活基礎調査匿名データにおける世帯構造と内分泌代謝疾患の通院との関連. 日本公衆衛生雑誌. 61(6):299-305. <u>Tsukinoki R</u>, Okamura T, Watanabe M, Kokubo Y, Higashiyama A, Nishimura K, Takegami M, Murakami Y, Okayama A, Miyamoto Y. (2014) : Blood Pressure,

	Low-Density Lipoprotein Cholesterol, and Incidences of Coronary Artery Disease and Ischemic Stroke in Japanese: The Suita Study. Am J Hypertens. 27(11):1362-9, 2014 Dote T, Tanimoto Y, Nakayama S, Tamaki J, Takii M, Yoshida K, Kusano E, <u>Tsukinoki R</u>, Yokoyama H. (2014) : Four-year follow-up of specific Health Checkups and Effect of Specific Health Guidance for Untreated employees. Bulletin of the Osaka Medical College 60 (1):19-25 土手友太郎, 中山紳, 草開俊之, 三井剛, 藤田愛子, 小林敏寛, 池原賢代, 林江美, 玉置淳子, 瀧井道明, 吉田久美子, 草野恵美子, <u>月野木ルミ</u>, 横山浩誉(2015): 私立大学の教職員における健康管理および特定保健指導への要望状況に対する意識調査.大阪医科大学看護研究雑誌.5:6-14
西菌貞子	C. Arakawa, S. Teraguchi, C. Akazawa, <u>T. Nishizono</u>, M. Yamamoto (2014) : Self-Management of Infection Control Behavior of Adult Recipients of Living-Donor Liver Transplantation Within 5 Years After, Transplantation Proceedings, 46, 838-840. 山内栄子, <u>西菌貞子</u>, 林優子 (2015) : 看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周手術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 第 5 巻, 76-86
畑中あかね	<u>畑中あかね</u>, 井上裕美 (2015) : 【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】 必須のケアからシステム立ち上げまで! フットケア外来のイロハ 基本の手技, 糖尿病ケア, 12 巻 3 号, p242-244 <u>畑中あかね</u>, 井上裕美 (2015) : 【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】 必須のケアからシステム立ち上げまで! フットケア外来のイロハ 基本の検査, 糖尿病ケア, 12 巻 3 号, p238-241 井上裕美, <u>畑中あかね</u> (2015) : 【基本知識から外来開設・運営のコツまでを伝授! 糖尿病フットケア外来の知識・手技・連携】 必須のケアからシステム立ち上げまで! フットケア外来のイロハ 足のアセスメント, 糖尿病ケア, 12 巻 3 号, p 234-237 丹生淳子, <u>畑中あかね</u> (2014) : 疾患と患者さんの"いま"がみえる! 使いこなし疾患別看護過程(第 24 回)全身性エリテマトーデス(SLE)ステロイドパルス療法を行う事例,Nursing Canvas,3 巻 3 号,p29-50 <u>畑中あかね</u> (2015) : 【患者中心医療のための糖尿病患者評価-基本的な病態と療養指導】 糖尿病に関する知識の評価と療養指導, 内分泌・糖尿病・代謝内科, 40 巻 1 号,科学評論社,p43-48 高橋奈美, <u>畑中あかね</u> (2014) : 疾患と患者さんの"いま"がみえる! 使いこなし疾患別看護過程(第 23 回) 筋萎縮性側索硬化症(ALS) NPPV 導入と胃ろう造設を検討する事例, Nursing Canvas, 3 巻 2 号, 学研メディカル秀潤社,p29-53 <u>畑中あかね</u> (2014) : 糖尿病を併せ持つ患者へのチームアプローチ(第 9 回) がん

	放射線療法 高度食道粘膜炎を併発した A さん, 看護実践の科学,39 巻 10 号, 看護の科学社,p36-39
横山浩誉	北村有香, <u>横山浩誉</u>, 小林貴子 (2015) : A 市における「認知症を理解し地域で支える会」の取り組みに関する研究—認知症高齢者の家族と医療・福祉職、地域住民が会に参加する意味—, 大阪医科大学看護学雑誌, 5, 54-64. Dote T, Tanimoto Y, <u>Yokoyama H</u> et al. (2014) : Effects of certain lifestyles modifications on mandatory routine health checkups changes of private university employees over three successive years, Bulletin of the Osaka Medical College 59(2), 75-83. Dote T, Tanimoto Y, <u>Yokoyama H</u> et al. (2014): Review of Priority for Health Counseling after Mandatory Routine Health Checkups Using Application, Stage of Change, Presence of Metabolic Syndrome, and Visceral Adiposity, Osaka Medical College Nursing Research 4, 32-40. Dote T, Tanimoto Y, <u>Yokoyama H</u> et al. (2014): Four-year follow-up of specific health checkups and effect of specific health guidance for untreated employees. Bulletin of the Osaka Medical College 60(1), 19-25. Dote T, Nakayama S, <u>Yokoyama H</u> et al. (2014): Three consecutive years of research on the stratification of specific health checkups, abnormal criteria values and healthy lifestyles among stage of changes. Japanese Journal of Occupational Medicine and Traumatology 62, 328-335.
川北敬美	<u>川北敬美</u>, 撫養真紀子, 勝山貴美子, 青山ヒフミ (2015) : 子育て中のパートタイム看護師の職業的アイデンティティに関する検討, 大阪医科大学看護学雑誌, 5, 36-46. 道重文子, 原明子, <u>川北敬美</u>, 仲前美由紀 (2015) : 長期療養者の口腔内環境の変化と細菌数からみた口腔ケアの課題, 大阪医科大学看護学雑誌, 5, 47-53.
西尾ゆかり	カルデナス暁東, 大塚俊宏, 森脇真一, 榎野茂樹, <u>西尾ゆかり</u>, 田中克子, 河嶋公美子 (2014) : ボディイメージの再形成に向けたメイクセラピーを取り入れた看護ケアを実施した皮膚筋炎女性患者の 1 例. 大阪医科大学医学雑誌 73(3), 25-29. 田中克子, カルデナス暁東, <u>西尾ゆかり</u> (2015) : 中国山西省人民病院の管轄地域「社区看護」の視察から見る継続看護の現状. 第 5 巻, 97-101.
原 明子	<u>原明子</u>, 林優子 (2015) : クリティカルケア看護領域における看護師の臨床判断と影響要因との関連. 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 15-27. 道重文子, <u>原明子</u>, 川北敬美, 仲前美由紀 (2015) 長期療養者の口腔内環境の変化と細菌数からみた口腔ケアの課題, 大阪医科大学看護研究雑誌, 5, 47-53.
肥後雅子	<u>肥後雅子</u> , 赤澤千春, 林優子 (2015) : 肝移植術後レシピエントの抑うつ—家族機能に焦点をあてて—, 日本移植・再生医療看護学会誌, (10) 2.

研究活動/【学会発表】

赤澤千春	<u>C Akazawa</u>, R. Fukuda, C. Arakawa; Effect of A Compact Bioelectrical Impedance Analyzer Use on Self-Efficacy in Patients with Lower-Limb Lymphedema, ICBM 2014.8.20-23. (オランダ). T. Nishizono, <u>C. Akazawa</u>; Study of self-management behavior of the recipients surviving for five years after liver transplant. CBM2014.8.20-23. (オランダ). 寺口佐與子, <u>赤澤千春</u>, 永田明, 磯見知恵; 乳がん術後続発性上肢リンパ浮腫患者の体重増減に関する自己管理行動, 第 34 回日本看護科学学会学術集会 2014.11.29-30. (名古屋)
小林貴子	Kiyoko Nishina, <u>Takako kobayashi</u>, Hirotaka Yokoyama, Junko Matsuo, Yoshie Ichikawa, Yuka Kitamura (2014): Practices of nurses involved in cooperative work with caregivers providing end-of-life care at long-term care facilities. The 35th International Association for Human Caring Conference. (Kyoto, Japan) <u>小林貴子</u>, 仁科聖子, 横山浩誉, 松尾淳子, 市川佳映, 北村有香 (2014): 介護保険施設における高齢者ケアの看護・介護の協働・連携に関わる看護師の実践 日本老年看護学会第 19 回学術集会 抄録集 242 (名古屋) 東めぐみ, 河口てる子, 下村裕子, <u>小林貴子</u>, 岡美智代, 他 (2014): 「治療の看護仕立て」の専門ケアの抽出—インスリン調整場面に焦点をあてて—第 19 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 日本糖尿病教育・看護学会誌 Vol.18.139 (岐阜)
佐々木綾子	<u>A. Sasaki</u>, T. Nishito1, K. Sasaki1 (2014): Evaluation of the educational program by Midwives on cervical cancer screening provided for mothers, ICM 30th Triennial Congress, Prague 吉川真弓, 飯田直美, 笠松泰江, <u>佐々木綾子</u> (2014): 回旋異常にも関わらず経膈分娩に至った初産婦 7 事例の検討, 日本母性看護学会誌, 45, 京都市, 2014. 笹下優姫, 大野愛海, 笹下弘子, 丹治恵実, 西頭知子, 佐々木くみ子, 波崎由美子・<u>佐々木綾子</u> (2014): ローリスク妊産婦の正常性維持をめざした Woman - Centered care の実践報告, 第 27 回福井県母性衛生学会総会ならびに学術集会プログラム・抄録集, 34, 福井市. 笹下優姫, 大野愛海, 笹下弘子, 丹治恵実, 西頭知子, 佐々木くみ子, 波崎由美子・<u>佐々木綾子</u> (2014): ローリスク妊産婦の正常性維持をめざした Woman - Centered care の実践報告, 第 27 回福井県母性衛生学会総会ならびに学術集会プログラム・抄録集, 34, 福井市. 橋本清美, 戸田紘世, 南朝子, 中村郁都未, <u>佐々木綾子</u> (2014): 切迫早産妊婦と正常経過妊婦の冷え症の実態, 第 27 回福井県母性衛生学会総会ならびに学術集会プログラム・抄録集, 36, 福井市. <u>佐々木綾子</u>, 波崎由美子 (2014): 産後 1 か月の褥婦の入浴開始時期に関する実態 (1), 第 45 回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会抄録集, 96, 熊本市 <u>佐々木綾子</u>, 波崎由美子, 岸上きみゑ, 鈴木秀文, 山本宝 (2014): 産後 1 か月の褥

	婦の入浴開始時期に関する実態(2)分娩後早期入浴の説明を受けた褥婦の行動と認識, 第45回日本看護学会-ヘルスプロモーション-学術集会抄録集, 97, 熊本市 <u>佐々木綾子</u>, 西頭知子, 佐々木くみ子, 波崎由美子(2014): 育児期女性の妊孕性維持につながる子宮頸がん検診受診率向上プログラムの効果, 第12回生殖看護学会学術集会抄録集, 大阪市, 2014. 佐々木くみ子, 丹治恵実, 西頭知子, <u>佐々木綾子</u>(2014): 分娩部とNICU看護職間で共有すべき胎児付属物の情報-付属物観察目的の認識と重視する観察項目の分析から-, 第34回日本看護科学学会学術集会講演集, 538, 名古屋. 工藤美子, 服部律子, <u>佐々木綾子</u>, 兼田美佳(2014): 母性看護学の実践知を集積するために~看護実践を実践知とするための課題~, 第16回日本母性看護学会, 90, 京都市.
鈴木久美	<u>鈴木久美</u>, 林直子, 大畑美里他(2014): 乳がん早期発見のためのセルフケアを促すDVD教材の開発と妥当性の検討, 第22回日本乳癌学会学術総会プログラム抄録集(suppl), 府川晃子, 片岡優実, <u>鈴木久美</u>他(2014): 3剤併用療法中にC型肝炎患者が体験した困難およびQOLの変化に関する検討—治療中断に至った事例から—, 日本慢性看護学会誌 8(1)(suppl), A93. 酒井謙, <u>鈴木久美</u>, 片岡優実他(2014): C型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの有効性, 日本慢性看護学会誌 8(1)(suppl), A94. <u>鈴木久美</u>, 福田護, 島田菜穂子他(2014): 看護職女性の乳がん検診に対する認識と行動および乳がん啓発教育のあり方の検討, 日本乳癌検診学会学誌 12(3)(suppl), 535. <u>鈴木久美</u>, 大畑美里, 林直子他(2014): 乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの効果, 第34回日本看護科学学会学術集会講演集(suppl), 292. 山中政子, <u>鈴木久美</u>, 佐藤禮子(2015): がん疼痛のある進行肺がん患者の情動体験, 第34回日本看護科学学会学術集会講演集(suppl), 502. 林直子, 森明子, <u>鈴木久美</u>他(2015): 女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する研究の動向と看護教育プログラムへの示唆, 日本がん看護学会誌 29(suppl), 168.
瀧井道明	<u>Takii M</u>, Masuda D, Ogura T, et al (2014): Evaluation of fatty acid absorption in the small Intestine using ¹³C palmitic acid breath test -Comparison between the presence and absence of bile acids in the small intestine-. Annual Meetings of the American Gastroenterological Association (AGA) at Digestive Disease Week (DDW 2014) abstract book, p410. <u>瀧井道明</u>, 増田大介, 井元 章, 他 (2014): 急性膵炎を発症した IPMN 症例についての検討. 日本消化器病学会雑誌 111(Suppl), A370. 井元 章, 増田大介, <u>瀧井道明</u>, 他 (2014): 新規バスケットカテーテルが膵石症に有効であった2例. 膵臓 29 (3), 674.

	Masuda D, Imoto A, <u>Takii M</u>, et al (2014) : Utility and problems of linear array EUS and ERCP for diagnosis and treatment of acute cholangitis in over 80 years high elderly patients. Annual Meetings of the American Gastroenterological Association (AGA) at Digestive Disease Week (DDW 2014) abstract book, p318. Masuda D, Ogura T, <u>Takii M</u>, et al (2014) : Utility and problems of linear array EUS and ERCP for diagnosis and treatment of acute cholangitis acute cholangitis. Annual Meetings of the American Gastroenterological Association (AGA) at Digestive Disease Week (DDW 2014) abstract book, p318. Masuda D, Ogura T, <u>Takii M</u>, et al (2014) : Outcome of branch duct IPMN follow up cases. Annual Meetings of the American Gastroenterological Association (AGA) at Digestive Disease Week (DDW 2014) abstract book, p413. 増田大介,井元 章,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) :分枝型 IPMN 経過観察例の検討—non-high risk stigmata および non-worrisome features 症例の長期予後—. 日本消化器病学会雑誌 111(Suppl), A299. 増田大介,井元 章,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) : 重症急性膵炎に対する初期治療の検討. 日本消化器病学会雑誌 111(Suppl), A955 松井將太,小倉 健,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) : 画像所見が SCN と極めて類似し、EUS-FNA で診断しえた膵上皮内癌の 1 例. 日本消化器内視鏡学会近畿支部第 92 回支部例会プログラム・抄録集, 30. 松井將太, 井元 章, <u>瀧井道明</u>, 他 (2014) : 細菌性髄膜炎に対するセフトリアキソン (CTRX) の投与が原因と考えられた胆石症の 2 成人例. 第 205 回日本内科学会近畿地方会プログラム・抄録集, 38. Ogura T, Masuda D, Imoto A, <u>Takii M</u>, Umegaki E, Higuchi K (2014) : A novel method of EUS-guided hepaticogastrostomy to prevent stent dysfunction. Annual Meetings of the American Gastroenterological Association (AGA) at Digestive Disease Week (DDW 2014) abstract book, p361. 小倉 健,増田大介,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) : 細径デリバリーシステムを用いた EUS-guided antegrade stenting 併用 EUS-guided hepatico-gastrostomy. 日本消化器病学会雑誌 111(Suppl), A268. 小倉 健,井元 章,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) : 切除不能肝門部胆管閉塞に対する EUS-guided biliary drainage (EUS-BD). 胆道 28 (3), 576. 小倉 健,井元 章,<u>瀧井道明</u>,他 (2014) : EUS-HGS における偶発症、ステント長期開存に関する因子の検討. Gastroenterological Endoscopy 57(Supp2), 3020.
田中克子	西尾ゆかり, カルデナス暁東, <u>田中克子</u>, 花房俊昭 (2014) : チームによる壮年期糖尿病患者の援助に関する研究, 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 5/22-24, 大阪国際会議場他, S-346. <u>田中克子</u>, カルデナス暁東, 西尾ゆかり, 堤千春, 花房俊昭, 和栗雅子, 川村智行 (2014) : 1 型糖尿病女性の妊娠・出産を支援する教育プログラム参加後の行動変容, 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会, 5/22-24, 大阪国際会議場他

	S-430.
土手友太郎	<u>土手友太郎</u>, 林 江美, 中山紳 他 (2014) : 特健の階層と腹部肥満区分別の保健指導希望、行動変容ステージ、健康状態の自覚状況、保健指導の内容と理由および生活習慣改善への有効要因の検討, 第 87 回日本産業衛生学会講演集 56,389. <u>土手友太郎</u>, 谷本芳美, 林 江美他 (2014) : 特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望内容と拒否理由および生活習慣改善の有効要因の検討, 第 55 回日本人間ドック学会 プログラム・抄録集 29, 319. <u>土手友太郎</u>, 谷本芳美, 中山紳他 (2014):特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討, 第 73 回 日本公衆衛生学会総会演題集 61,66. <u>土手友太郎</u>, 中山紳, 横山浩誉(2014):特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討, 第 62 回 日本職業災害医学会講演集 プログラム・抄録 62, 177. <u>土手友太郎</u>, 中山紳, 玉置淳子, 吉田久美子(2015) :特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討, 第 49 回 日本成人病（生活習慣病）学会 学術集会 プログラム・抄録集 41, 24.
泊 祐子	Junko Takemura, Hiroe Tsushima, <u>Yuko Tomari</u> (2014) : Nursing that promotes the resilience of Japanese parents with special needs children in transition to adulthood. ICN 8th APNN(International Nurse Practitioner Conference. (Helsinki) Hiromi Kokabu, <u>Yuko Tomari</u>, Hiroe Tsushima (2014) : Practice of the school nurse responsible of medical care foe special needs school children in Japan. ICN 8th APNN(International Nurse Practitioner Conference. (Helsinki) 竹村淳子, 津島ひろ江, <u>泊祐子</u> (2014) : 重症心身障害児の二次障害の治療選択に直面した母親へのレジリエンスに働きかけた看護師の援助, 日本家族看護学会第 21 回学術集会抄録集, 132. (岡山) 岡田摩理, 相撲佐希子, <u>泊祐子</u> (2014) : 医療機関で就業経験のある看護学生が教育施設の実習で感じたケアの特徴, 日本看護学教育学学会第 24 回学術集会, 318. (千葉) 秋元典子, 森田敏子, 大塚眞里子, 佐藤正美, <u>泊祐子</u>他(2014) : 理事会企画 I 「採択される論文を書くために」—不採用理由の分析と看護学教育研究における倫理的配慮—, 日本看護学教育学学会第 24 回学術集会, 53 (千葉).
道重文子	岡崎美智子, <u>道重文子</u>, 梶佳子, 中橋苗代, 仲前美由紀, 石垣恭子 (2014) : 看護過程を基盤として臨床判断力を育成する学習支援システム開発の評価, 日本医療情報学会第 15 回看護学術大会, 178-179, (盛岡) <u>道重文子</u>, 原 明子, 川北敬美, 仲前美由紀 (2014) : 経管栄養者における口腔ケア前後の口腔内細菌数の変化と口腔状態との関連 : 日本看護技術学会第 32 回学術集会, 185, (京都) 原 明子, 川北敬美, 松尾淳子, <u>道重文子</u> (2014) : 採血困難に影響する血管の特

	徴, 日本看護技術学会第 32 回学術集会, 178, (京都) 川北敬美, 原 明子, <u>道重文子</u> (2014): 看護師の転職経験と職務満足との関係, 日本看護科学学会第 33 回学術集会, 626, (名古屋) 原 明子, 川北敬美, <u>道重文子</u> (2014): 看護師の転職経験と個人特性との関連, 日本看護科学学会第 33 回学術集会, 626, (名古屋)
元村直靖	<u>Naoyasu Motomura</u> (2014): Cognitive Behavior Therapy for Children and Adolescents with Anxiety Disorders: the 7th International Conference of Health Behavioral Science. Sep. 15-18 London. 辻翔平, 黒田健司, <u>元村直靖</u>, 小金丸聡子, 牧岡省吾, 佐浦隆一 (2014): 道順障害の診断指導としての迷路学習課題の有用性についての検討: 第 38 回神経心理学学会, 30, 4, 308, 山形. 黒田健司, <u>元村直靖</u>, 辻翔平, 岩井有香, 小金丸聡子, 古瀬元雅, 佐浦隆一 (2014): 相貌失認における熟知相貌のリハビリテーション—意味判断と形態判断を用いた反復訓練の比較—第 38 回日本高次脳機能障害学会学術総会 11/28-29. 仙台
吉田久美子	土手友太郎, 中山紳, 玉置淳子, <u>吉田久美子</u> (2015): 特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討, 第 49 回日本成人病 (生活習慣病) 学会 学術集会 プログラム・抄録集 41, 24
草野恵美子	<u>草野恵美子</u>, 山崎嘉久, 加藤恵子, 新美志保, 樺山舞, 山埜ふみ恵 (2014): 乳幼児健診における保健師の総合的判断に至る保健指導プロセス構造化の試み, 第 73 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 403. 土手友太郎, 谷本芳美, 中山紳, 玉置淳子, 吉田久美子, <u>草野恵美子</u>, 月野木ルミ (2014): 特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討, 第 73 回日本公衆衛生学会総会抄録集, 369. 伊藤真貴, 八幡恭子, 谷口洋子, <u>草野恵美子</u> (2015): 大阪市鶴見区における子育て支援と連動した生活習慣病予防教室の検討—第 1 報 生活習慣病予防行動の継続について 6 年間の振り返り—, 第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集. 八幡恭子, 伊藤真貴, 谷口洋子, <u>草野恵美子</u> (2015): 大阪市鶴見区における子育て支援と連動した生活習慣病予防教室の検討—第 2 報 教室終了後の生活習慣病予防行動の継続について—, 第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集. 坂上里絵, 小嶋好子, <u>草野恵美子</u> (2015): 中央区におけるハイリスク妊婦の妊娠期および 3 か月児健診までの育児状況と 3 か月児健診時のフォローの特徴, 第 3 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集.
竹村淳子	<u>竹村淳子</u>, 津島ひろ江, 泊 祐子 (2014): Nursing that promotes the resilience of Japanese parents with special needs children in transition to adulthood. ICN 8th APNN(International Nurse Practitioner Conference. (Helsinki) <u>竹村淳子</u>, 津島ひろ江, 泊 祐子 (2014): 重症心身障害児の二次障害の治療選択に直面した母親へのレジリエンスに働きかけた看護師の援助, 日本家族看護

	学会第 21 回学術集会抄録集, 132. (岡山) 岡本啓子, 仁宮真紀, 木村真規子, 山田景子, 古株ひろみ, <u>竹村淳子</u>, 山本裕子 (2014) : 交流集会 4 学校における医療的ケアの必要な子どもとその家族への支援 ―学校の看護師・小児看護専門看護師・養護教諭の連携―, 日本家族看護学会第 21 回学術集会抄録集, 92. (岡山)
松尾淳子	橋本眞希, 倉増理帆, 原明子, <u>松尾淳子</u> (2014) : 体圧分散マットレスの違いによる体圧分散効果と寝心地評価の検討, 第 16 回日本褥瘡学会学術集会, 405, 8 月 (名古屋) 原明子, 川北敬美, <u>松尾淳子</u>, 道重文子 (2014) : 採血困難に影響する血管の特徴, 日本看護技術学会第 13 回学術集会, 178, 11 月 (京都)。 倉増理帆, 橋本眞希, 原明子, <u>松尾淳子</u> (2014) : 体圧分散マットレスの違いによるずれ力と圧迫感についての評価, 第 16 回日本褥瘡学会学術集会, 405, 8 月 (名古屋) 小島奈穂子, 原明子, <u>松尾淳子</u> (2014) : 日医療粘着テープ貼付中の皮膚へのスキンケア泡を用いた愛護的洗浄法と保湿剤を併用したスキンケアの検討, 日本看護技術学会第 13 回学術集会, 79, 11 月 (京都) <u>松尾淳子</u>, 原明子, 藪中幸一, 田邊将之, 瀧井道明 (2014) : 超音波画像を用いた高齢者の便秘状態の定量的評価方法, 日本放射線技術学会(JSRT) 第 70 回総会学術大会, 181, 4 月 (横浜) <u>松尾淳子</u>, 藪中幸一, 田邊将之, 瀧井道明 (2014) : 超音波機器及び尿量計測機器における性能比較, 日本超音波医学会第 87 回学術集会, (横浜)。 <u>松尾淳子</u>, 倉増理帆, 橋本眞希, 橋本美香, 西山順子 (2014) : 高機能エアマットレスの使い分け方法の検討, 第 23 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 335, 5 月 (大宮) <u>松尾淳子</u>, 倉増理帆, 橋本眞希, 橋本美香, 西山順子 (2014) : 高機能エアマットレスの選択基準の検討, 第 16 回日本褥瘡学会学術集会, 405, 8 月 (名古屋) <u>松尾淳子</u>, 山田真乃華, 炭本佑佳, 原明子, 倉増理帆, 橋本眞希, 橋本美香, 西山順子 (2014) : ウレタンフォームマットレスの違いによるずれ力の比較, 第 12 回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会, 32, 3 月 (大阪) <u>Matsuo J.</u> Yabunaka K. Tanabe M , Takii M (2014) : Comparison of the Performance of Ultrasound Devices and a Bladder Volume Measurement Device for Residual Urine Assessment, Computer Assisted Radiology and Surgery Proceeding of the 28th International Congress and Exhibition ,372-373,June,Fukuoka <u>Matsuo J</u> (2014) : Blood Vessel Observation Using an Ultrasonography, Proceeding of Life Engineering Symposium 2014, September, 23-25, (Kanazawa) 田邊将之, <u>松尾淳子</u>, 原明子, 藪中幸一, 瀧井道明 (2014) : 大腸内容物の定量評価を目的とした超音波画像解析の初期検討, 日本放射線技術学会(JSRT) 第 70 回総会学術大会, 182, 5 月 (横浜) Yabunaka K. <u>Matsuo J.</u> Tanabe M , Takii M, Noguchi A, Gotanda T, Sanada H, Sanada S

	(2014) : Ultrasonographic assessment of the constipation in adults: comparison with computed tomography, Computer Assisted Radiology and Surgery Proceeding of the 28th International Congress and Exhibition ,371-372, June, Fukuoka
真継和子	小西由起子, 浦上友江, 櫻井明子, 七堂美香, 富森菜穂美, 松本美知子, 船橋眞喜枝, <u>真継和子</u> (2014) : 大阪府における看護職の継続教育に関する学習ニーズの実態調査(第1報), 第45回日本看護学会—看護教育—学術集会, 286, 新潟. 櫻井明子, 七堂美香, 松本美知子, 小西由起子, 浦上友江, 富森菜穂美, 船橋眞喜枝, <u>真継和子</u> (2014) : 大阪府における病院看護師の教育ニーズの実態, 第2回大阪府看護学会, 130, 大阪. 浦上友江, 富森菜穂美, 小西由起子, 櫻井明子, 七堂美香, 松本美知子, 船橋眞喜枝, <u>真継和子</u> (2014) : 大阪府における看護職者の短期研修への参加状況と不参加理由, 第2回大阪府看護学会, 132, 大阪.
カルデナス 暁東	西尾ゆかり, <u>カルデナス暁東</u>, 田中克子, 花房俊昭 (2014) : チームによる壮年期糖尿病患者の援助に関する研究, 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月22～24日, 大阪国際会議場他, S-346. 田中克子, <u>カルデナス暁東</u>, 西尾ゆかり, 堤千春, 花房俊昭, 和栗雅子, 川村智行 (2014) : 1型糖尿病女性の妊娠・出産を支援する教育プログラム参加後の行動変容, 第57回日本糖尿病学会年次学術集会, 5月22～24日, 大阪国際会議場他 S-430. 辻本裕子, 斉藤早苗, <u>カルデナス暁東</u>, 黒田裕子, 町浦美智子, 末原紀美代 (2014) : 女子学生の月経に関連する知識と行動～日本人学生と中国人留学生の比較から～, 第55回日本母性衛生学会学術集会, 9月13～14日, 幕張メッセ国際会議場. 斉藤早苗, <u>カルデナス暁東</u>, 辻本裕子, 黒田裕子, 町浦美智子, 末原紀美代 (2014) : 在日中国人女性留学生の生活の質の実感とリプロダクティブヘルス, 第34回日本看護科学学会学術集会, 11月29～30日, 名古屋国際会議場. Saitoh Sanae, <u>Cardenas Xiaodong</u>, Tsujimoto Hiroko, Kuroda Yuko, Machiura Michiko, Suehara Kimiyo (2015) : Health and QOL of Chinese female students in Japan, 18th East Asian Forum of Nursing Scholars (18th EAFONS), Feb.5-6, Taipei.
小林道太郎	<u>小林道太郎</u> (2014): 実践の中の共同行為による伝達: 一病棟看護師の語りから, 第II期第9回「ケアの現象学」研究会, 10月, 浜松駅前ビルB会議室.
月野木ルミ	橋本修二, 川戸美由紀, 山田宏哉, 鈴木茂孝, 眞崎直子, 柴田陽介, 尾島俊之, 三重野牧子, <u>月野木ルミ</u>, 村上義孝. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第1報 震災前後の死亡状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. 眞崎直子, 橋本修二, 川戸美由紀, 尾島俊之, 山田宏哉, 柴田陽介, 坂田清美, 横山由香里, <u>月野木ルミ</u>, 三重野牧子, 松田智大, 仲村秀子, 中村美詠子. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第2報 震災前後の自殺死亡状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. 柴田陽介, 尾島俊之, 中村美詠子, 仲村秀子, 眞崎直子, 川戸美由紀, 三重野牧

	子, <u>月野木ルミ</u>, 橋本修二. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第3報 震災前後の肺炎死亡状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. 川戸美由紀, 橋本修二, 山田宏哉, 鈴木茂孝, 三重野牧子, <u>月野木ルミ</u>, 村上義孝. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第4報 震災前後の医療施設の廃止・休止状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. 三重野牧子, 橋本修二, 川戸美由紀, 山田宏哉, <u>月野木ルミ</u>, 村上義孝. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第5報 震災前後の病院の受療状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. <u>月野木ルミ</u>, 村上義孝, 三重野牧子, 川戸美由紀, 眞崎直子, 柴田陽介, 橋本修二. (2014) : 東日本大震災と保健医療統計の研究 第6報 震災前後の患者の受療状況. 日本公衆衛生学会, 栃木. <u>Tsukinoki R</u>, Murakami Y, Hayakawa T, Hashimoto S. (2014) : Change in number of patients after the Great East Japan Earthquake and tsunami disaster: an analysis of the data of the Patient Survey in Japan, 2008 and 2011. 20th IEA World Congress of Epidemiology; Anchorage, USA. 土手友太郎, 谷本芳美, 中山紳, 玉置淳子, 吉田久美子, 草野恵美子, <u>月野木ルミ</u>. (2014) : 特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討. 日本公衆衛生学会, 栃木. 土手友太郎, 谷本芳美, 中山紳, 玉置淳子, 吉田久美子, 草野恵美子, <u>月野木ルミ</u>. (2014) : 特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望、拒否理由、生活習慣改善の有効要因の検討. 日本人間ドック学会, 長野.
西藺貞子	<u>T. Nishizono</u>, C. Akazawa(2014) : Study of self-management behavior of the recipients surviving for five years after liver transplant. The 13th International Congress of Behavioral Medicine,(Holland Groningen) Aughast.20-23. 池谷友希, <u>西藺貞子</u>(2015) : 中堅看護師のキャリア形成に対する現状評価ならびにラダー研修によるキャリア開発能力獲得の現状, 第28回近畿・北陸地方会学術集会講演集, 金沢, 3/7 山本佳奈, <u>西藺貞子</u>(2015) : 乳がん患者の生活の再構築過程における自己効力感の変化を見通した看護支援の現状, 第28回近畿・北陸地方会学術集会講演集, 金沢, 3/7
西頭知子	A. Sasaki, <u>T. Nishito</u>, K. Sasaki (2014) : Evaluation of the educational program by Midwives on cervical cancer screening provided for mothers 、ICM 30th Triennial Congress, Prague 笹下優姫, 大野愛海, 笹下弘子, 丹治恵実, <u>西頭知子</u>, 佐々木くみ子, 波崎由美子・佐々木綾子 (2014) : ローリスク妊産婦の正常性維持をめざした Woman - Centered care の実践報告, 第27回福井県母性衛生学会総会ならびに学術集会プログラム・抄録集, 34, 福井市. 佐々木綾子, <u>西頭知子</u>, 佐々木くみ子, 波崎由美子 (2014) : 育児期女性の妊孕性維持につながる子宮頸がん検診受診率向上プログラムの効果, 第12回生殖

	看護学会学術集会抄録集，大阪市。 佐々木くみ子，丹治恵実，<u>西頭知子</u>，佐々木綾子（2014）：分娩部とNICU看護職間で共有すべき胎児付属物の情報—付属物観察目的の認識と重視する観察項目の分析から—，第34回日本看護科学学会学術集会講演集，538，名古屋。
畑中あかね	<u>畑中あかね</u>（2014）：合併症進行期にある糖尿病患者のライフストーリーナラティブ実践，シンポジウム「長軸的コントロールを支援する知と技—語りを聴くことの意義—」，第19回日本糖尿病教育・看護学会，岐阜 村角直子，大倉瑞代，<u>畑中あかね</u>他（2014）：交流集会「日頃の実践を投稿しよう！—実践報告のまとめ方—」，第19回日本糖尿病教育・看護学会，岐阜
横山浩誉	土手友太郎，林江美，<u>横山浩誉</u> 他（2014）：特健の階層と腹部肥満区分別の保健指導希望，行動変容ステージ，健康状態の自覚状況，保健指導の内容と理由および生活習慣改善への有効要因の検討，第87回日本産業衛生学会講演集56,389。 土手友太郎，谷本芳美，<u>横山浩誉</u>他（2014）：特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望内容と拒否理由および生活習慣改善の有効要因の検討，第55回日本人間ドック学会 プログラム・抄録集29,319。 土手友太郎，谷本芳美，<u>横山浩誉</u>他（2014）：特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望，拒否理由，生活習慣改善の有効要因の検討，第73回日本公衆衛生学会総会演題集61,66。 土手友太郎，中山紳，<u>横山浩誉</u>（2014）：特健階層と腹部肥満区分別の保健指導の要望，拒否理由，生活習慣改善の有効要因の検討，第62回日本職業災害医学会講演集 プログラム・抄録62,177。
川北敬美	<u>川北敬美</u>（2014）：看護師における職務特性モデルの検証，第18回日本看護管理学会学術集会抄録集，237。 原明子，<u>川北敬美</u>，松尾淳子，道重文子（2014）：採血困難に影響する血管の特徴，日本看護技術学会第13回学術集会講演抄録集，178。 道重文子，原明子，<u>川北敬美</u>，仲前美由紀（2014）：経管栄養者における口腔ケア前後の口腔内細菌数の変化と口腔状態との関連，日本看護技術学会第13回学術集会講演抄録集，185。 <u>川北敬美</u>，原明子，道重文子（2014）：看護師の転職経験と職務満足との関係，第34回日本看護科学学会学術集会講演集，626。 原明子，<u>川北敬美</u>，道重文子（2014）：看護師の転職経験と個人特性との関連，第34回日本看護科学学会学術集会講演集，626。
丹治恵実	笹下優姫，大野愛海，笹下弘子，<u>丹治恵実</u>，西頭知子，佐々木くみ子，波崎由美子・佐々木綾子（2014）：ローリスク妊産婦の正常性維持をめざした Woman - Centered care の実践報告，第27回福井県母性衛生学会総会ならびに学術集会プログラム・抄録集，34，福井市。 佐々木くみ子，<u>丹治恵実</u>，西頭知子，佐々木綾子（2014）：分娩部とNICU看護職間で共有すべき胎児付属物の情報—付属物観察目的の認識と重視する観察項目の分

	析から一，第 34 回日本看護科学学会学術集会講演集，538，名古屋。
檜原理恵	<u>檜原理恵</u>(2014)：新卒看護師の訪問看護ステーションへの受入れは可能なのか？ —新卒看護師の育成に向けて管理者が求めるシステムとは—，第 18 回日本看護管理学会学術集会抄録集，253. <u>檜原理恵</u>（2014）：訪問看護ステーションの新人訪問看護師への教育および人材確保についての現状と課題，第 19 回日本在宅ケア学会学術集会講演集，121.
西尾ゆかり	<u>西尾ゆかり</u>，カルデナス暁東，田中克子（2014）：チームによる壮年期糖尿病患者の援助に関する研究. 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，5 月 22～24 日，大阪国際会議場他，S-346. 田中克子，カルデナス暁東，<u>西尾ゆかり</u>，堤千春，花房俊昭，和栗雅子，川村智行（2014）：1 型糖尿病女性の妊娠・出産を支援する教育プログラム参加後の行動変容. 第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会，5 月 22～24 日，大阪国際会議場他，S-430.
原 明子	橋本眞希，倉増理帆，松尾淳子，<u>原明子</u>（2014）：体圧分散マットレスの違いによる体圧分散効果と寝心地評価の検討. 第 16 回日本褥瘡学会学術集会，405，（名古屋） 倉増理帆，橋本眞希，松尾淳子，<u>原明子</u>（2014）：体圧分散マットレスの違いによるずれ力と圧迫感についての評価. 第 16 回日本褥瘡学会学術集会，394，（名古屋） <u>原明子</u>，川北敬美，松尾淳子，道重文子（2014）：採血困難に影響する血管の特徴. 日本看護技術学会第 13 回学術集会，178，（京都） 道重文子，<u>原明子</u>，川北敬美，仲前美由紀（2014）：経管栄養者における口腔ケア前後の口腔内細菌数の変化と口腔状態との関連. 日本看護技術学会第 13 回学術集会，185，（京都） 小島奈緒子，<u>原明子</u>，松尾淳子（2014）：医療粘着テープ貼付中の皮膚へのスキンケア泡を用いた愛護的洗浄法と保湿剤の使用を併用したスキンケアの検討. 日本看護技術学会第 13 回学術集会，79，（京都） 川北敬美，<u>原明子</u>，道重文子，稲垣伊津穂（2014）：看護師の転職経験と職務満足との関係. 第 34 回日本看護科学学会学術集会，626，（名古屋） <u>原明子</u>，川北敬美，道重文子（2014）：看護師の転職経験と個人特性との関連. 第 34 回日本看護科学学会学術集会，626，（名古屋）

VI. 社会活動

社会活動

赤澤千春	日本移植・再生医療看護学会 庶務理事 及び 査読委員 日本看護研究学会 評議員 及び 査読委員 日本教育看護学会 査読委員
荒木孝治	日本精神保健看護学会誌 専任査読委員 日本移植・再生医療看護学会誌 専任査読委員 日本看護研究学会 評議員 日本看護研究学会 編集委員 大阪府立精神医療センター 治験審査委員会 外部委員 大阪府立精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員
小林貴子	日本慢性看護学会第9回学術集会企画委員
佐々木綾子	日本助産学会第4回(第28回)学術集会座長 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会座長 第16回日本母性看護学会学術集会座長 第33回日本看護科学学会査読委員 日本母性看護学会研究促進理事 第16回日本母性看護学会企画委員
鈴木久美	日本慢性看護学会評議員 日本がん看護学会誌専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員 日本看護系大学協議会文部科学省委託事業プロジェクト委員 愛知県立大学大学院非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師 がん化学療法看護認定看護師教育課程非常勤講師
瀧井道明	日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、近畿地方会評議員 日本消化器病学会専門医、近畿支部評議員、本部学会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医、指導医、近畿支部評議員 日本肝臓学会認定専門医 日本超音波医学会認定超音波専門医、指導医 日本消化吸収学会評議員 日本安定同位体・生体ガス医学応用学会評議員 ¹³ C 法消化吸収能&肝代謝能検査標準化に向けた検討委員会委員 日本医師会認定産業医 大阪医科大学医師会雑誌編集委員会編集委員 大阪医科大学第二内科兼担医局員 大阪医科大学第二内科春洋会幹事

土手友太郎	日本産業衛生学会代議員 日本衛生学会評議員 日本職業災害医学会評議員 高槻市都市開発・高槻市ホテル等建築・高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員 健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員 厚生労働省医員（関西空港検疫所・大阪検疫所） 高槻市役所産業医
泊 祐子	日本家族看護学会第 21 回学術集会企画委員 日本家族看護学会，理事，編集委員会委員長 日本看護研究学会理事，渉外担当 看護系学会等社会保険連合(看保連)委員 日本看護研究学会専任査読者 日本看護研究学会近畿北陸地方会世話人 日本看護学教育学学会評議員，編集委員会委員 日本看護学教育学学会，専任査読者 第 21 回日本家族看護学会会長講演（座長） 第 23 回日本看護学教育学学会一般演題口演（座長） 和歌山県立医科大学大学院看護学研究科非常勤講師 川崎医療福祉大学大学院保健学研究科非常勤講師 滋賀県立大学大学院人間看護学研究科非常勤講師
林 優子	日本看護科学学会代議員 日本慢性看護学会理事 日本慢性看護学会政策委員会委員長 日本慢性看護学会査読委員 第 9 回日本慢性看護学会学術集会企画委員会（学術集会長） 日本移植・再生医療看護学会理事長 日本移植・再生医療看護学会倫理検討委員会委員 日本看護学教育学学会評議員 日本看護学教育学学会査読委員 看護系学会等社会保健連合(看保連)理事 (看保連)診療報酬及び介護報酬体系のあり方に関する検討委員会委員長 認定レシピエント移植コーディネーター認定合同委員会委員 日本私立看護系大学協会理事 日本私立看護系大学協会大学運営・経営に関する事業委員長 平成 26 年度認定レシピエント移植コーディネーター試験作成 WG 委員 第 50 回日本移植学会総会(東京)，臓器横断型シンポジウム ：移植看護における特殊性と各施設の取り組み(座長) 日本看護学教育学学会第 24 回学術集会(千葉)，ポスターセッション(座長) 第 10 回日本移植・再生医療看護学会学術集会(大阪)，

	特別講演：移植・再生医療看護学会 10 年の歩みと未来に向けて(講師) 第 19 回一般社団法人日本看護研究学会東海地方会学術集会(浜松), 教育講演：看護実践の専門性とその展望(講師) 第 13 回三保連合同シンポジウム (東京), シンポジスト： 医療と介護の連携 看保連の立場から 浜松医科大学大学院非常勤講師 聖隷クリストファー大学大学院非常勤講師 放送大学(成人看護学)非常勤講師 岡山県看護協会(看護研究)講師
道重 文子	日本看護研究学会監事 日本口腔ケア学会評議員 日本看護診断学会評議員 第 13 回日本看護技術学会学術集会企画運営委員 第 40 回日本看護研究学会学術集会企画委員 大阪府看護協会認定看護管理者教育課程セカンドレベル, 講師, 「看護管理実践計画書作成」, 2014 京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル 「グループマネジメント」講師, 2014 大阪医科大学附属病院看護部研修, 講師, 「NANDA・NOC・NIC の基礎とリンケージ」, 2014 大阪医科大学附属病院看護部研修, 講師, 「看護実践と理論」, 2014 箕面市歯科医師会平成 26 年度口腔ケア講習会市民健康教室, 講師, 「口の健康は命の源」—口腔ケアで肺炎予防—, 2015. 2.7
元村直靖	日本保健医療行動科学会評議員 日本神経心理学会雑誌 編集委員 日本行動療法学会誌 編集委員 日本トラウマティックストレス学会 理事 日本神経心理学会 評議員 日本高次脳機能障害学会 評議員 International Journal of child development and Mental Health (Editorial board) Honorary adviser : Raganagarindre research center (Thailand)
吉田久美子	日本看護医療学会評議委員 日本看護医療学会査読委員 滋賀県彦根市要保護児童対策協議会副会長 高槻市保健師人材育成ガイドライン作成委員 滋賀県彦根市児童虐待防止シンポジウム 「児童虐待が与える子どもへの影響・脳科学の視点から」対談・座長 第 36 回藤原九十郎賞表彰記念シンポジウム座長 「今も昔も一みる・つなぐ・動かす」—私の保健師と仕手の実践活動—

	愛知県半田保健所 保健師研究会 講師「児童虐待とDVへの支援を考える」 愛知県知多保健所 保健師研修会 講師「ハイリスク母子への支援活動」 愛知県幸田町保健センター 赤ちゃん訪問院養成講座 講師 「家庭訪問の心得と技術・ロールプレイ」 愛知県知多郡民生委員児童委員連盟講演会 講師 「子どもの笑顔が輝くまちづくり—今・私たちにできること」 高槻市保健師研修会 講師 「基本的実践能力を獲得するために、キャリアラダーの観点を学ぶ」
草野恵美子	交野市次世代育成支援行動計画推進委員会委員 交野市基本構想審議会委員 社団法人大阪府看護協会調査研究倫理審査会委員 日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師， 「地域特性を見据えた介護予防事業：介護予防教室の企画に向けて～健康教育の手法をもとに～」 高槻市地域包括支援センター保健師・看護師連絡会研修会，講師，「地域特性を見据えた介護予防事業：評価につながる計画立案」
竹村淳子	日本家族看護学会第21回学術集会実行委員 日本家族看護学会学会誌 専任査読者 聖泉大学看護学部学術誌査読委員（外部）
松尾淳子	(講演)携帯型エコーの看護への活用，大阪ハートクラブ看護セミナー講師，6月，大阪 (講演)よく分かる！患者さんの特性に合ったマットレス選択～これを聞けば失敗しませんから～，在宅床ずれセミナー講師，12月(大阪)，2月(広島，岡山) (講演)現代医療を救う画像看護学，夢ナビ講義ライブ，6月，大阪 第2回看護理工学会編集委員，10月，大阪 日本看護技術学会第13回学術集会実行委員，11月，京都 日本褥瘡学会評議委員 看護理工学会評議委員
真継和子	日本看護学教育学会専任査読委員 日本家族看護学会編集委員会委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会世話人 社団法人大阪府看護協会教育委員会教育委員長 特定医療法人西陣健康会堀川病院看護部倫理委員会 外部委員 NPO 法人 SEAN 役員（監事） 大阪府看護協会大阪府看護教員養成講習会 講師 京都私立病院協会 看護中間管理者研修Ⅰ 講師 和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科 非常勤講師

瓜崎貴雄	日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価（査読）委員 大阪府看護協会 短期研修「心のケア：一般病院で対応する精神症状のある患者の理解とケア」講師 大阪府看護協会 救急看護認定看護師教育課程「救急患者と家族の心理・社会的アセスメント」非常勤講師 大阪医科大学看護学部看護実践研究センター 看護研究セミナー「看護研究 Step4 よくわかる質的研究」講師
小林道太郎	現象学的看護研究の教育方法の確立科研費プロジェクト 研究会「ケアの現象学：現象学的な方法を学ぶ」講師, 2015 年 3 月
月野木ルミ	日本公衆衛生学会 モニタリングレポート委員会 生活習慣病・メタボリックシンドロームグループ、公衆栄養グループ メンバー 日本公衆衛生雑誌査読委員 The Japan Journal of Nursing Science, Reviewer ㈱平和堂 衛生管理者教育 講師「家庭血圧計について」 滋賀医科大学看護学科 客員講師 滋賀医科大学看護学科 非常勤講師 「ライフステージと健康Ⅲ」,「保健医療情報論 1」 立命館大学産業社会学部 非常勤講師「衛生学」
西菌貞子	日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人 日本移植・再生医療看護学会 評議委員 第 10 回日本移植・再生医療看護学会学術集会 企画委員 奈良県立医科大学看護学部演習 講師「看護課程論」教育方法について 京都府後援保育士免許取得特例講座 講師 奈良県立医科大看護学科 FD 研修会 講師
畑中あかね	日本糖尿病教育・看護学会 評議員（2008～）, 学会誌編集委員（2009～）, 政策委員（2012～） 日本フットケア学会 評議員（2009～）, 研修委員（2009～） 日本糖尿病療養指導士認定機構 ガイドブック編集委員（2010～） 日本慢性看護学会 評議員（2014） 第 8 回日本慢性看護学会学術集会実行委員 日本フットケア学会 フットケア指導士育成のための実技講習 講師 岡山県立大学認定看護師教育センター 糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師 畑中あかね, 坂井誠（2014）：第 51 回日本糖尿病学会近畿地方会 座長「高齢者」
横山浩誉	大阪医科大学附属病院看護部看護研究セミナー「看護研究の意義と方法 研究における倫理的配慮」／講義（講師） 第 7 回大阪糖尿病看護スキルアップセミナー「高齢糖尿病患者の在宅療養に関する関係法規と地域の現状」／講演（講師）及びグループディスカッションのアドバイザー

川北敬美	第 13 回日本看護技術学会実行委員 京都府看護協会認定看護師教育課程ファーストレベル「グループマネジメント」 ／演習ファシリテーター
西尾ゆかり	第 8 回日本慢性看護学会学術集会 実行委員 第 9 回日本慢性看護学会学術集会 企画委員 中国山西医科大学第一附属病院 学術交流会 7/21-7/23、講師
原 明子	日本看護技術学会第 13 回学術集会 実行委員
肥後雅子	日本移植・再生医療看護学会 選挙管理委員

VII. 地域・社会貢献

地域・社会貢献

赤澤千春	第3回看護研究セミナー 講師「看護研究 Step1」 京都私立病院協会看護中間管理者研修Ⅰ（主任コース）「看護研究」2日間 大阪医科大学附属病院看護部看護研究セミナー『質的データ分析・論文作成』 4回
荒木孝治	新阿武山病院（高槻市奈佐原） 職員研修（「スタッフへの関わり方」）講師
小林貴子	認知症を理解し地域で支える会主催、大阪医科大学看護学部・高槻市他後援 「第8回情報交流・相談会」の運営・実施（2014.7） 認知症を理解し地域で支える会主催、大阪医科大学看護学部・高槻市他後援 「高齢者ケア研修会」の企画・運営・実施（2014.10） 社会福祉法人成光苑「第10回研究発表会」講師（2015.3） 認知症を理解し地域で支える会主催、大阪医科大学看護学部・高槻市他後援 「第9回情報交流・相談会」の企画・運営（2015.3）
佐々木綾子	大阪医科大学 リプロダクティブヘルスケア(Reproductive Health Care)研究会を立ち上げた。 福井愛育病院看護研究セミナー講師
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人
田中克子	第8回日本慢性看護学会学術集会 実行委員 第9回日本慢性看護学会学術集会 企画委員 岐阜県立看護大学大学院非常勤講師 中国山西医科大学第一附属病院 学術交流会」7/21-7/23、講師
泊 祐子	大阪府看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会、講師、 「看護系大学における教育」 第1回近畿子ども保健研究会、講師、 「重度障がいのある子どもと家族の在宅生活を支える」
林 優子	学校法人大阪医科大学評議員
道重文子	NPO 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク、ふれあい喫茶での健康相談
草野恵美子	大阪市鶴見区保健福祉センター、研究指導協力 大阪府中央区保健福祉センター、研究指導協力
竹村淳子	大阪医科大学広報入試部の依頼による進学ガイダンス（インテックス大阪）
真継和子	生きがい工房 元気いっぱいサロン健康講座 講師
カデナス暁東	第8回日本慢性看護学会学術集会 実行委員 第9回日本慢性看護学会学術集会 企画委員 柏原市民病院看護研究講師 中国山西医科大学第一附属病院 学術交流会 7/21-7/23、講師
月野木ルミ	「手作り乳がんモデルを用いた乳がん予防 Navi」.平成 26 年度「健康たかつき

	21」活動展示会、高槻市、2014.9.27 大阪医科大学 第14回 国際交流シンポジウム コメンテーター.2014.7.14
西頭知子	大阪医科大学 リプロダクティブヘルスケア（Reproductive Health Care）研究会を立ち上げた。
畑中あかね	大阪府看護協会 研修「認定看護管理者研修ファーストレベル」「糖尿病シリーズ②：糖尿病の薬物療法」「糖尿病シリーズ⑤：糖尿病重症化予防（フットケア）研修」「糖尿病透析予防支援 質向上のための研修」講師
横山浩誉	新見地域在宅医療支援システム研究会 委員
川北敬美	関西看護管理研究会 企画運営
丹治恵実	大阪医科大学 リプロダクティブヘルスケア（Reproductive Health Care）研究会を立ち上げた。

VIII. その他

その他

赤澤千春	大阪医科大学附属病院 形成外科外来 リンパ浮腫看護外来従事
小林貴子	大阪医科大学看護事例検討会主催
佐々木綾子	福井新聞 2014 年 10 月 28 日 子育てマイスター便り: 股関節脱臼予防のため赤ちゃんの足の姿勢は「M 字型」に、 平成 26 年度 日本学術振興会審査委員表彰
泊 祐子	大阪医科大学家族看護研究会主催
林 優子	科学研究費補助金基盤研究 (c) (一般): 臓器移植看護における看護師の倫理的 実践の変化－アクションリサーチを用いて－, 2014-2016 (研究代表者) 看護系学会等社会保健連合研究助成金:慢性疾患患者の生命維持療法選択意思決 定支援ニーズの実態調査, 2014 (共同研究者)
道重文子	リフレケア口腔ケアセミナーin 大阪, 講師, 「看護・介護職に必要な口腔のアセ スメントとケアのコツ」, 2014.10.18 関西オーラルマネジメント研究会ハンズオンセミナーの開催, 2014.12.7
竹村淳子	大阪医科大学家族看護研究会主催
松尾淳子	優秀論文賞受賞, 「ベッドメイキングの違いがエアマットレスの圧再分配機能に 及ぼす影響」, 第 23 回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 5 月(大 宮)
真継和子	大阪医科大学家族看護研究会主催
瓜崎貴雄	FROMPAGE 主催国公立大学・私立大学合同進学ガイダンス 夢ナビライブ 2014 (名古屋会場)「人の気持ちをよりよく理解するためには？」講師
月野木ルミ	患者調査に基づく東日本大震災が疾病に与えた影響. 「医療の広場」(印刷中)
畑中あかね	日本糖尿病教育・看護学会 奨励賞

編集後記

本年も無事に「大阪医科大学看護学部年報 2014 年度」を発刊することができました。 各先生方のご協力により、2015 年の前期の期間中に発刊することができ感謝申し上げます。

本年度は、掲載項目や内容の見直しを行い、記載方法の統一に努めました。

本学看護学部の教育・研究活動の内容を紹介していますので、今後の各種活動や自己点検等の際にお役立て頂ければ幸いです。

年報作成にご協力いただきました本学看護学部教員をはじめ関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。なお、記載方法を統一するにあたり、学務部看護学事務課の五藤睦子様にご尽力をいただきました。

今後とも年報編集委員会活動へのご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪医科大学看護学部年報編集委員会

大阪医科大学
看護学部 2014 年度年報

発行日	平成 27 年 7 月 31 日
発 行	学校法人大阪医科大学看護学部 〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6
編 集	看護学部 年報編集委員会 道重文子 元村直靖 竹村淳子 檜原理恵
制 作	知人社